

薬学部

氏名 上田 條二 (UEDA Joji)

所属 薬学部薬学科

職名 教授・薬学科長

生年月日 1947年2月3日

[履歴]

[学歴]

1969年3月 東北薬科大学薬学部薬学科卒業

1971年3月 東北薬科大学大学院修士課程修了

[学位]

薬学博士

[職歴]

1971年4月 東北薬科大学助手

1980年4月 東北薬科大学講師

1993年4月 東北薬科大学助教授

2004年4月 青森大学薬学部教授 (現在に至る)

[受賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本薬学会、日本農芸化学会、日本生薬学会

[教育活動]

[担当科目]

薬学部：生薬学、天然物化学、漢方薬学概論、有機化学・天然物化学実習、
薬学総合演習Ⅰ、実務実習事前実習、特別実習

大学院：環境分子生物学、自然資源環境論

[卒業研究指導]

2006年度 卒業研究：1名

2007年度 卒業研究：2名

2008年度 卒業研究：3名

2009年度 卒業研究：1名

2010年度 卒業研究：4名

2011年度 卒業研究：5名

2012年度 卒業研究：9名

2013年度 卒業研究：14名

[ゼミ指導]

薬学部担任制で各学年 2～4名を指導

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験支援のため、補講を行っている。
2. 共用試験支援のため、補講を行っている。
3. 薬の原点を知るため、薬用植物園見学を行っている。
4. 漢方薬の理解を深めるため、希望者に漢方薬のゼミを行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 植物成分の構造解析及びその薬理活性.
2. 漢方湯液中の有効成分の解明 (漢方薬がなぜ効くのかを科学的に解明する).
3. 健康補助食品の開発

[著書、論文、総説]

特記事項なし

[学会発表]

1. 食品機能性の開発研究、マウス末梢血流量の改善作用について 日本生薬学会 第 54 年会
2. 食品機能性の開発研究、マウス末梢血流量の改善作用について その 2 日本農芸化学会 2008 年度大会 (名古屋) 2008

[研究費の取得状況]

共同研究

1. 2006 年 各種生薬・食品成分の血流改善効果の評価 (株)ロッテ 1,265,000 円
2. 2009 年 ドジョウの成分研究 株式会社 竹田測量設計 600,000 円
3. 2009 年 各種界面活性剤、配合剤の溶血性評価 株式会社 ブレストシーブ 2,400,000 円
4. 2010 年 ドジョウの成分研究 株式会社 竹田測量設計 600,000 円

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

出張講義:

- 生活習慣病と薬用植物について 日本薬用植物友の会 2006 年 8 月 5 日
身近な薬草について 青森市中央市民センター 2006 年 9 月 6 日
身近な民間薬・漢方はなぜ効くのか むつ市中央公民館 2006 年 2 月 15 日
漢方はなぜ効くの? オープンカレッジ市民大学 2007 年 6 月 15 日
タバコと健康 青森山田学園校務員研修会 2007 年 9 月 1 日
民間薬と健康食品 機能性食品開発センター 2007 年 10 月 29 日
医療現場における漢方の使い方 (株)医薬品情報センター 2009 年 11 月 20 日
身近な民間薬 後援会秋田支部研修会 2009 年 11 月 29 日
身近な民間薬 青森市中央市民センター 2009 年 12 月 2 日
身近な民間薬 青森市中央市民センター 2009 年 1 月 28 日
漢方概論 株式会社医薬品情報センター 2009 年 2 月 12 日

[学内各種委員]

学生募集連絡会

教務委員

就職委員

入試管理委員

入試選抜委員

[学外各種委員]

日本生薬学会 代議員

日本薬学会 代議員

日本薬学会東北支部 副部長

青森県登録販売員試験委員会

氏名 三浦 裕也 (MIURA Hiroya)
所属 薬学部薬学科
職種 教授
生年月日 1960年8月10日

[履 歴]

[学 歴]

1985年3月 東北大学薬学部薬学科卒業
1990年3月 東北大学薬学部薬学研究科博士課程後期修了

[学 位]

薬学博士

[職 歴]

1990年4月 山之内製薬株式会社開発薬理研究所研究員
2005年4月 アステラス製薬株式会社 創薬代謝第二研究研究室長
2008年3月 アステラス製薬株式会社 退職
2009年10月 日本赤十字社 血漿分画センター 技術開発部長
2015年3月 日本血液製剤機構 (旧日赤分画センター) 退職
2015年4月 青森大学・薬学部 教授

[所属学会]

日本薬学会、日本分析化学会

[教育活動]

[担当科目]

生物薬剤学、薬物動態学、薬剤学実習

[教育指導に関する特記事項]

投与された医薬品が的確に薬効発現するためのメカニズムを薬剤学観点から理解できるよう重点的に指導する

[研究活動]

[研究テーマ]

- ・ 医薬品のバイオアベイラビリティに影響を与える因子の解明
- ・ 代謝に影響を与える人種間差の検討
- ・ 医薬品開発・製造における効率化とリスクマネジメントの検討
等

氏名 大上 哲也 (OHGAMI, Tetsuya)

所属 薬学部

職種 教授

生年月日 1958年12月23日

[履 歴]

[学 歴]

1983年3月 岐阜市立 岐阜薬科大学薬学部厚生薬学科卒業

1985年3月 岐阜市立 岐阜薬科大学大学院修士課程 (医療薬学コース) 修了

[学 位]

1993年12月 薬学博士

[職 歴]

1985年4月 協和発酵工業株式会社 (現、協和発酵キリン株式会社) 宇部研究所

1996年1月 三菱化学株式会社 (現、田辺三菱製薬株式会社) 横浜総合研究所主任研究員

2004年9月 株式会社阪神調剤薬局 教育研修部部長

2011年4月 クオール株式会社 西日本第一事業部長、薬局支援本部担当部長

2014年4月 青森大学 薬学部教授 (現在に至る)

[非常勤講師歴]

2008年4月～2015年3月 兵庫医科大学医学部 生理学教室 (生体情報部門) 非常勤講師

2009年4月～2013年3月 神戸薬科大学 非常勤講師 (社会保障、薬剤経済)

2014年6月～2016年3月 東北大学大学院医学研究科 (病態神経学) 非常勤講師

2015年5月～現在に至る 弘前大学大学院医学研究科 (脳神経内科学) 非常勤講師

[研究生・専修生歴]

1989年4月 九州大学 医学部 神経病理学教室 研究生

1990年4月 九州大学 医学部 神経病理学教室 研究生修了、専修生として継続在籍

1996年3月 九州大学 医学部 神経病理学教室 専修生修了

[受 賞]

2013年11月 日本薬局学会 功労賞受賞

[所属学会]

日本認知症学会、日本神経病理学会、日本薬局学会、日本薬剤師会、認知症の人と家族の会

[教育活動]

[担当科目]

薬物療法学Ⅰ、薬物療法学Ⅱ、薬学臨床Ⅰ、薬学臨床Ⅱ、薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、調剤学実習、実務実習事前学習、実務実習 (保険薬局)、特別実習、薬品情報学 (一部担当)

[卒業研究指導・研究生の研究指導]

2014年4月より着任し、指導を開始。2015年度 卒業研究 1名

[ゼミ指導]

薬学部担任制で各学年2～3名を指導。研究生2名

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験合格支援のため補習を行っている。
2. 成績不振の学生に対して、補習を行ない学生の学力向上に努めている。
3. 薬学臨床のアドバンス教育の一環として、当研究室の疾患テーマである「認知症」を対象疾患としたサマースクールを開催 (8月に2日間)。社会人 (製薬メーカーの社員、薬局薬剤師等) と当研究室の学生 (含む、研究生) が参加。2015年は、弘前大学大学院医学研究

科脳神経内科学講座と共同で、弘前大学医学部付属病院で実施。2016年は、中野脳神経外科クリニックと共同で、同クリニックで実施。

[研究活動]

[研究室のスローガン] 認知症の方々の杖となれるよう

[研究テーマ]

1. 基礎研究：認知症（特にアルツハイマー病）の発症機構の解明。
2. 臨床研究：認知症の非薬物療法、サプリメント並びに予兆法の研究開発。
3. 地域医療研究：認知症在宅医療並びに地域医療ネットワークの構築に関する研究。
4. 認知症啓発に関する研究と実践。

[主な著書、論文、総説]

1. Ohgami, T., Kitamoto, T., Shin, R.W., Ogomori, K., Tateishi, J: “Increased senile plaques without microglia in Alzheimer’s disease”, *Acta Neuropathol.* 81, 242-247, 1991
2. Ohgami, T., Kitamoto, T., Tateishi, J: “Alzheimer’s amyloid precursor protein-positive degenerative neurites exist even with Kuru plaques, not specific to Alzheimer’s disease”, *Am. J. Pathol.* 139, 1245-1250, 1991
3. Ohgami, T., Kitamoto, T., Tateishi, J: “Alzheimer’s amyloid precursor protein accumulates within axonal swellings in human brain lesions”, *Neurosci. Lett.* 136, 75-78, 1992
4. Ohgami, T., Kitamoto, T., Tateishi, J: “Alzheimer’s amyloid precursor protein mRNA without exon 15 is ubiquitously expressed except in the rat central nervous system”, *Mol. Brain Res.* 20, 240-244, 1993
5. Ohgami, T., Kitamoto, T., Tateishi, J: “The rat central nervous system expresses Alzheimer’s amyloid precursor protein APP695, but not APP 677 (L-APP form)”, *J. Neurochem.* 61, 1553-1556, 1993
6. Ohta, M., Kitamoto, T., Iwaki, T., T., Ohgami, T., Fukui, M., Tateishi, J.: “Immunohistochemical distribution of amyloid precursor protein during normal rat development”, *Develop. Brain Res.* 75, 151-161, 1993
7. 納屋聖、大上哲也、出口隆志：幼若ラットを用いた皮下投与による4週間反復投与毒性試験，*基礎と臨床* 29 (7), 1837-1867, 1995
8. Kitayama, J., Kitazono, T., Ooboshi, H., Ago, T., Ohgami, T., Fujishima, M., Ibayashi, J.: “Chronic administration of tyrosine kinase inhibitors functional and morphological changes of the basal artery during chronic hypertension”, *Hypertension* 20, 2205-2211, 2002
9. Kakinoki, B., Sekimoto, S., Yuki, S., Ohgami, T., Sejima, M., Yamagami, K., Saito, K.: “Orally active neurotrophin-enhancing agent protects against dysfunctions of the peripheral nerves in hyperglycemic animals.”, *Diabetes* 55 (3), 616-621, 2006
10. Kawase, A., Ohgami, T., Yoshida, I., Tsunokuni, Y., Iwaki, M.: “Little diurnal variation of nuclear receptors in mice with or without fasting”, *Pharmacology & Pharmacy* 4, 240-243, 2013
11. 榊原幹夫、大上哲也、水野由夏、藤原 武、金澤智美、川原淳、原正朝、亀井浩行、金田大太、森啓、「認知症認定薬剤師制度の必要性」、*薬局薬学*, 124-132, 2014 ; 6

[学会発表]

1. 大上哲也、久米俊行、青山英昭、久保完治：「ヒト乳癌組織内金属に関する研究：アントラサイクリン系抗癌剤の効果発現機序に及ぼす影響」、日本癌学会，1985
2. 大上哲也、久米俊行、青山英昭、久保完治、杉浦衛：「ヒト乳癌組織内金属に関する研究：アントラサイクリン系抗癌剤の効果発現機序に及ぼす影響」、日本薬学会，1985
3. 久米俊行、大上哲也、青山英昭、久保完治、杉浦衛：「ヒト乳癌組織内金属に関する研究：シスプラチンの抗腫瘍効果発現機序に及ぼす影響」、日本薬学会，1986.
4. 大上哲也、北本哲之、立石潤、Beyreuther, K : “ Increased senile plaques without microglia in Alzheimer’ s disease” , 国際神経病理学会，1991
5. 大上哲也、北本哲之、辛龍雲、立石潤：「 β アミロイド前駆体蛋白 (APP)は老人斑だけでなくクル斑にも蓄積する」, 日本神経病理学会，1991
6. 大上哲也、北本哲之、立石潤：「 β アミロイド前駆体蛋白 (APP)は変性軸策内に蓄積している」, 日本神経病理学会，1992
7. 太田正流、大上哲也、北本哲之、立石潤：「ラット胎児期における β アミロイド前駆体蛋白 (APP)の発現」, 日本神経病理学会，1993
8. 大上哲也、北本哲之、立石潤：「新規の L-APP 分子 (APP677)の発現」, 日本神経病理学会，1993
9. 大上哲也、北本哲之、立石潤：“ The rat central nervous system expresses Alzheimer’ s amyloid precursor protein APP695, but not APP 677 (L-APP form)” , 日本神経病理学会，1994
10. 大上哲也、新谷瀧子、岡原一徳：「認知症地域ネットワークの構築～よあけ会の設立」, 日本薬局学会，2007
11. 杉森直美、小林智子、三輪裕美子、宮本陽子、筒井由貴子、大上哲也：実務実習を通して、調剤過誤の観点において学んだこと～共に学び共に育つ～，日本薬局学会，2010
12. 大上哲也、一井定信、越後尚恵、中山慧哉、森祐輔、藤公晴、田中志子、宮川愛子
認知症の方々の杖となれるよう～青森大学オレンジプランの実践～、認知症の人と家族の会
全国大会 (青森) ,2014
12. 野呂暁、一井定信、越後尚恵、中山慧哉、森祐輔、森啓、大上哲也：在宅訪問薬剤師ができる簡便な認知機能の把握方法の検討、日本薬局学会，2014
13. 筒井志帆、野呂暁、一井定信、柴田葵、若佐谷佳苗、畠山貴行、榊原幹夫、森啓、大上哲也：
在宅訪問薬剤師のみならず家族、介助者でもできる簡便な認知機能把握方法の検討、
日本薬局学会,2015
14. 大上今日子、田中志子、宮川愛子、大川史世、大上哲也
第1回青森 オレンジ文化祭～認知症の方々の作品展示会.第34回日本認知症学会.,2015
15. 河越眞介,大上哲也,山上徹也,中野高広,岡原一徳,宇井,森 啓,第13回日本病院総合診療医学会学術総会.,2016

[公開講座、講演、セミナー]

1. 公開シンポジウム「これからの社会に求められる薬剤師像」、第2回朝日新聞 薬剤師シンポジウム、2008年3月 (名古屋)
2. 教育セミナー「服薬指導の要点と薬歴～ 認知症～」、日本保険薬局協会関西服薬指導懇話会、2009年9月 (大阪)
3. 教育セミナー「薬局で研究しよう～テーマ探しのコツ」、日本薬局学会、2012年10月 (福岡)
4. 幸畑地区高齢者研修会、テーマ：認知症、2014年8月 (青森)
5. 認知症サポーター養成講座、2014年10月 (青森大学)

6. 青森大学公開講座 「まちなかキャンパス」 テーマ：認知症、2014年12月
7. 出張講義 油川寿大学院 テーマ：認知症と治療薬、2015年1月（青森）
8. 出張講義 板柳高校、 テーマ：認知症と治療薬、2015年10月（青森）
9. 一般公開講座、日本認知症学会後援サテライトプログラム、2015年10月（青森）
10. 出張講義「おいでよ！キッズタウン “子どもたちの街”」、2016年8月（青森）
11. 青森大学オープンカレッジ市民大学 “いきいきとした脳をたもつために”、2016年9月（青森）

【社会貢献活動】

1. 認知症の方々の作品展示会（大上研究室主催）
 - ・第1回 青森オレンジ文化祭、2014年10月（青森大学）
後援：日本認知症学会、青森市、五所川原市、深浦町、青森市教育委員会
 - ・第2回 青森オレンジ文化祭、2015年10月（リンクステーションホール青森、青森大学）
後援：日本認知症学会、青森市、五所川原市、深浦町、平内町、青森市教育委員会
2. こどもゆめ基金助成活動：
 - ・中学生、高校生対象教育セミナー 「薬剤師をやってみよう！」 2015年1月、2月
 - ・中学生、高校生対象教育セミナー 「ミクロの世界へ」 2015年2月（日本認知症学会後援）
 - ・中学生、高校生対象教育セミナー 「薬剤師をやってみよう！」 2015年7月
 - ・中学生、高校生対象教育セミナー 「ミクロの世界へ」 2015年10月（日本認知症学会後援）
 - ・中学生、高校生対象教育セミナー 「模擬薬局セミナー」 2016年2月
3. 認知症啓発活動
 - ・まちなかキャンパス 2014年12月（青森）
 - ・いきいき脳健康教室 2015年、2016年（青森、神戸）

【特別研究】

- ・青森学術文化振興財団助成事業「短命返上～高齢認知症対策に関する地域振興研究」, 2015年
- ・青森学術文化振興財団助成事業「短命返上～高齢認知症対策に関する地域振興研究」, 2016年
- ・青森市まちなかフィールドスタディ支援事業「青森いきいき脳健康教室」, 2016年
- ・NEXCO 東日本技術研究助成事業, 「高齢者、認知症ドライバーにおける認知機能バランスに関する研究」 2016年
- ・弘前大学医学部との共同研究：岩木健康増進プロジェクト健診（岩木）, 2016年
- ・弘前大学医学部との共同研究：いきいき健診（弘前）, 2016年

【学内各種委員】

青森大学医の倫理委員会（委員長）、事前実習実施委員会（委員長）、卒業試験委員会委員、OSCE 運営委員会委員、実務実習実施委員会委員、薬学教育評価機構対策委員会委員、日本高等教育評価機構対策委員会委員、

薬剤師国家試験問題検討委員会実務部会委員

[所属学会並びに委員]

- 日本認知症学会 会員
- 神経病理学会 会員
- 日本薬剤師会 会員
- 認知症の人と家族の会 会員
- 認知症ケア研究会 会員
- 日本薬局学会 評議員
- 日本薬局学会 学術雑誌「薬局薬学」編集委員会 副委員長並びに査読委員
- 日本薬局学会 倫理委員会倫理委員 副委員長
- 日本薬局学会 学術大会プログラム委員並びに査読委員

氏名 小笠原 恵子

所属 薬学部

職種 教授

生年月日 昭和 28 年 4 月 19 日

[履歴]

[学歴] 昭和 52 年 3 月北里大学薬学部薬学科卒業

[職歴] 昭和 52 年 4 月十和田市立中央病院薬局入局

平成 8 年 4 月十和田市立中央病院薬剤長昇格

平成 12 年 4 月十和田市立中央病院薬局長就任

平成 26 年 3 月十和田市立中央病院定年退職

[受賞] 平成 26 年 5 月 日本病院薬剤師会功労賞

[所属学会] 日本緩和医療学会、日本緩和医療薬学会

[教育活動]

[担当科目] 臨床薬学

[卒業研究指導] 文献調査研究

[ゼミ指導] 在宅医療の現場を学ぶ。「緩和ケアチームにおける薬剤師の役割」を中心として

[教育指導に関する特記事項] 病院薬剤師として臨床現場で積んできた実務経験を生かしチーム医療の一員として貢献できる知識・技術・マインドを持った薬剤師の育成を目指す。

[研究活動]

[研究テーマ] 緩和ケアと地域連携

[その他の活動]

青森県薬剤師会理事（上十三地区薬剤師会副支部長）・十和田市民大学講座企画運営委員

[学内各種委員会]

教務委員会・OSCE 運営委員会・事前学習実施委員会・実務実習実施委員会・ワークショップ委員会・生涯教育委員会

氏 名 岡島 史和 (OKAJIMA, Fumikazu)

所 属 薬学部

職 種 教授

生年月日 1950年5月18日

[履 歴]

[学 歴]

1969年4月 北海道大学入学

1973年北海道大学薬学部修士課程入学

1975年北海道大学薬学部博士課程入学

1978年北海道大学薬学部博士過程終了

[学 位]

1978年 薬学博士

[職 歴]

1978年4月米国シダースサイナイメディカルセンター 博士研究員

1981年3月北海道大学助手

1986年12月群馬大学助教授

1997年6月群馬大学教授

[受 賞]

日本生化学会奨励賞 (1988年)

日本内分泌学会奨励賞 (1994年)

[所属学会]

日本生化学会

日本内分泌学会

日本脂質生化学会

日本アレルギー学会

日本薬学会

[教育活動]

[担当科目]

病態生化学 I、病態生化学 II、医療薬学 II、創薬学概論

[卒業研究指導]

2016年着任で6年生5名、4年生2名。

[ゼミ指導]

担任制により1年生3名、4年生2名、6年生5名

[教育指導に関する特記事項]

薬剤師国家試験合格支援のための補講をおこなっている。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. プロトン感知性 G タンパク 共役受容体の機能解析
2. 脂質メディエーターの作用とその役割

[著書、論文、総説]

最近 5 年間の研究業績

1. Komachi M, Sato K, Tobo M, Mogi C, Yamada T, Ohta H, Tomura H, Kimura T, Im DS, Yanagida K, Ishii S, Takeyoshi I, and Okajima F.: An orally active lysophosphatidic acid receptor antagonist attenuates pancreatic cancer invasion and metastasis in vivo. *Cancer Sci.* 103:1099-1104 (2012)
2. Nakakura T, Mogi C, Tobo M, Tomura H, Sato K, Kobayashi M, Ohnishi H, Tanaka S, Wayama M, Sugiyama T, Kitamura T, Harada A, and Okajima F.: Deficiency of Proton-Sensing Ovarian Cancer G Protein-Coupled Receptor 1 Attenuates Glucose-Stimulated Insulin Secretion. *Endocrinology* 153:4171-4180 (2012)
3. Wang J, Sun Y, Tomura H, and Okajima F.: Ovarian cancer G-protein-coupled receptor 1 induces the expression of the pain mediator prostaglandin E2 in response to an acidic extracellular environment in human osteoblast-like cells. *Int. J. Biochem. Cell Biol.* 44:1937-1941 (2012)
4. Park SJ, Lee KP, Kang S, Chung HY, Bae YS, Okajima F., and Im DS.: Lysophosphatidylethanolamine utilizes LPA1 and CD97 in MDA-MB-231 breast cancer cells. *Cellular Signalling* 25: 2147-2154 (2013)
5. Okajima F.: Regulation of inflammation by extracellular acidification and proton-sensing GPCRs. *Cellular Signalling* 25: 2263-2271 (2013)
6. Seki K, Hisada T, Kawata T, Kamide Y, Dobashi K, Yamada M, Mori M, Okajima F., Ishizuka T.: Oxidative stress potentially enhances FceRI-mediated leukotriene C₄ release dependent on the late-phase increase of intracellular glutathione in mast cells. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 439:357-362 (2013)
7. Aoki H, Mogi C, Hisada T, Nakakura T, Kamide Y, Ichimonji I, Tomura H, Tobo M, Sato K, Tsurumaki H, Dobashi K, Mori T, Harada A, Yamada M, Mori M, Ishizuka T, and Okajima F.: Proton-sensing ovarian cancer G protein-coupled receptor 1 on dendritic cells is required for airway responses in a murine asthma model. *PLoS ONE* (2013) 8: e79985
8. Sato K, Tobo M, Mogi C, Murata N, Kotake M, Kuwabara A, Im DS, and Okajima F.: Lipoprotein-associated lysolipid molecules are differentially involved in high-density lipoprotein- and its oxidized form-induced neurite remodeling in PC12 cells. *Neurochem. Int.* 68:38-47 (2014)
9. Jin Y, Sato K, Tobo A, Mogi C, Tobo M, Murata N, Ishii S, Im DS, and Okajima F.: Inhibition of interleukin-1b production by extracellular acidification through the TDAG8/cAMP pathway in mouse microglia. *J. Neurochem.* 129:683-695 (2014)
10. Park SJ, Lee KP, Kang S, Lee J, Sato K, Chung HY, Okajima F., and Im DS: Sphingosine 1-phosphate induced anti-atherogenic and atheroprotective M2 macrophage polarization through IL-4. *Cellular Signalling* 26:2249-2258 (2014)
11. Kotake M, Sato K, Mogi C, Tobo M, Aoki H, Ishizuka T, Sunaga N, Imai H, Kaira K, Hisada T, Yamada M, and Okajima F.: Acidic pH increases cGMP accumulation through the OGR1/phospholipase C/Ca²⁺/neuronal NOS pathway in N1E-115 neuronal cells. *Cellular Signaling* 26:2326-2332 (2014)
12. Mogi C, Nakakura T, and Okajima F.: Role of extracellular proton-sensing receptors in regulation of insulin secretion and pancreatic β-cell functions. *Endocrine J.* 61:101-110 (2014)
13. Aoki H, Mogi C, and Okajima F.: Ionotropic and metabotropic proton-sensing receptors involved in airway inflammation in allergic asthma. *Mediators of Inflammation* volume 2014, Article ID 712962, 8 pages (2014)

14. Mochimaru Y, Azuma M, Oshima N, Ichijo Y, Satou K, Matsuda K, Asaoka Y, Nishina H, Nakakura T, Mogi C, Sato K, Okajima F, and Tomura H: Extracellular acidification activates ovarian cancer G-protein-coupled receptor 1 and GPR4 homologs of zebra fish. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 457:493-499 (2015)
15. Kim JM, Lee KP, Park SJ, Kang S, Huang J, Lee JM, Sato K, Chung HY, Okajima F, and Im DS: Omega-3 fatty acids induce Ca²⁺ mobilization responses in human colon epithelial cell lines endogenously expressing FFA4. *Acta Pharmacol. Sin.* 36:813-820 (2015)
16. Tobo A, Tobo M, Nakakura T, Ebara M, Tomura H, Mogi C, Im DS, Murata N, Kuwabara A, Ito S, Fukuda H, Arisawa M, Shuto S, Nakaya M, Kurose H, Sato K, and Okajima F: Characterization of imidazopyridine compounds as negative allosteric modulators of proton-sensing GPR4 in extracellular acidification-induced responses. *PLoS One.* 10:e0129334 (2015)
17. Kamide Y, Ishizuka T, Tobo M, Tsurumaki H, Aoki H, Mogi C, Nakakura T, Yatomi M, Ono A, Koga Y, Sato K, Hisada T, Dobashi K, Yamada M, and Okajima F: Acidic environment augments FcεRI-mediated production of IL-6 and IL-13 in mast cells. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 464:949-955 (2015)
18. Uchiyama T, Tomono S, Sato K, Nakamura T, Kurabayashi M, and Okajima F.: Angiotensin II reduces lipoprotein lipase expression in visceral adipose tissue via phospholipase C β4 depending on feeding but increases lipoprotein lipase expression in subcutaneous adipose tissue via c-Src. *PLoS One.* 10:e0139638 (2015)
19. Yatomi M, Hisada T, Ishizuka T, Koga Y, Ono A, Kamide Y, Seki K, Saito-Aoki H, Tsurumaki H, Sunaga N, Kaira K, Dobashi K, Yamada M, and Okajima F: 17(R)-resolvin D1 Ameliorates Bleomycin-induced Pulmonary Fibrosis in Mice. *Physiological Reports* e12628 (2015).
20. Tsurumaki H, Mogi C, Aoki-Saito H, Tobo M, Kamide Y, Yatomi M, Sato K, Dobashi K, Ishizuka T, Hisada T, Yamada M, and Okajima F: Protective role of proton-sensing TDAG8 in lipopolysaccharide-induced acute lung injury. *International Journal of Molecular Sciences* 16 (12):28931-42 (2015).
21. 岡島史和:「炎症性疾患とプロトン感知性受容体」GPCR研究の最前線2016 医学の歩み 256 : 583-589.
22. Ichijo Y, Yuta Mochimaru Y, Azuma M, Satou K, Negishi J, Nakakura T, Oshima N, Mogi C, Sato K, Matsuda K, Okajima F, and Tomura H.: Two zebrafish G2A homologs activate multiple intracellular signaling pathways in acidic environment. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 469:81-86 (2016)
23. Fukuda H, Ito S, Watari K, Mogi C, Arisawa M, Okajima F, Kurose H, Shuto S: Identification of a Potent and Selective GPR4 Antagonist as a Drug Lead for the Treatment of Myocardial Infarction. *ACS Medicinal Chemistry Letters*, 24;7(5):493-497(2016).

[学会発表]

平成 24 年 (2012 年から 2 年間) の主な学会発表

1. 鶴巻 寛朗、久田 剛志、吉見 誠至、原田 孝、古賀 康彦、飯塚 邦彦、青木 悠、上出 庸介、矢富 正清、関 香織、小野 昭浩、解良 恭一、砂長 則明、土橋 邦生、岡島 史和、山田 正信：慢性閉塞性肺疾患に対する Indacaterol/Glycopyrronium の有効性と安全性の検討 第 55 回日本呼吸器学会学術講演会 2015 年 4 月 17 日(金)～19 日(日) 東京国際フォーラム(東京都千代田区丸の内 3 丁目 5 番 1 号)
2. 矢富正清、久田剛志、上出庸介、青木悠、古賀康彦、小野昭浩、土橋邦生、石塚全、岡島史和、山田正信：17(R)-ResolvinD1 は、MCP-1 遺伝子発現を抑制し、炎症収束を促進する 第 55 回日本呼吸器学会学術講演会 2015 年 4 月 17 日(金)～19 日(日) 東京国際フォーラム
3. 門脇麻衣子、山田秀典、森川美羽、梅田幸寛、安斎正樹、飴嶋慎吾、上出庸介、青木悠、久田剛志、岡島史和、石塚全：細胞外 pH 低下によるヒト気管支平滑筋細胞からの IL-8, アンフィレグリン産生に関する検討 第 64 回日本アレルギー学会学術大会 2015 年 5 月 26 日(火)～28 日(木) グランドプリンスホテル新高輪 国際館バミール

4. 上出庸介、石塚全、鶴巻寛朗、小野昭浩、古賀康彦、矢富正清、久田剛志、土橋邦生、岡島史和、山田正信：マウス肥満細胞機能はプロトンにより調整される 第 64 回日本アレルギー学会学術大会 2015 年 5 月 26 日 (火) ~28 日 (木) グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール
5. 矢富正清、久田剛志、上出庸介、鶴巻寛朗、青木悠、小野昭浩、古賀康彦、関香織、土橋邦生、岡島史和、山田正信：ブレオマイシン誘発肺線維症における 17(R)-RvD1 の 抗炎症及び抗線維化効果の検討 第 64 回日本アレルギー学会学術大会 2015 年 5 月 26 日 (火) ~28 日 (木) グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール
6. 中嶋克行、佐藤幸市、岡島史和、宮下和也、今村茂行、小林淳二、白川尚史、下村洋之助、町田哲男、角野博之、村上正巳：血中リポ蛋白リパーゼとレムナント・リポ蛋白の相互関係について 第 57 回日本脂質生化学会 2015 年 5 月 28 日 (木) ~29 日 (金) 一橋講堂 (東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1-2)
7. Hiroaki Tsurumaki, Youseke Kamide, Tamotsu Ishizuka, Akihiro Ono, Yasuhiko Koga, Takeshi Hisada, Kunio Dobashi, Fumikazu Okajima, Masanobu Yamada, Masami Yaniguchi: Proton regulates Fc ϵ RI-mediated cytokine production through enhancement of p38MAPK and Akt activation in mouse mast cells The 25th Congress of Interasma Japan/North Asia 2015 年 9 月 3 日 (木) ~4 日 (金) ホテルニューグランド (横浜市中区山下町 10 番地)
8. Koichi Sato, Ye Jin, Ayaka Tobo, Masayuki Tobo, Chihiro Mogi, Fumikazu Okajima: Acidic pH inhibits interleukin-1 β ; production by down-regulation of mitogen-activated protein kinase activity through the TDAG8/protein kinase A pathway in mouse microglia 第 58 回日本神経化学会大会 2015 年 9 月 11 日 (金) ~13 日 (日) 大宮ソニックシティ (さいたま市大宮区桜木町 1-7-5)
9. Masakiyo Yatomi, Takeshi Hisada, Yasuhiko Koga, Akihiro Ono, Yosuke Kamide, Haruka Aoki, Tsurumaki Hiroaki, Kaori Seki, Noriaki Sunaga, Kyoichi Kaira, Tamotsu Ishizuka, Kunio Dobashi, Masanobu Yamada, Fumikazu Okajima: 17(R)-resolvin D1 ameliorates bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice via decreasing MCP-1 mRNA ERS (欧州呼吸器学会議) INTERNATIONAL CONGRESS 2015 2015 年 9 月 26 日 (土) ~30 日 (水) AMSTERDAM Netherlands
10. 当房文香、佐藤幸市、当房雅之、茂木千尋、岡島史和：プロトン感知性受容体 GPR4 選択的阻害物質の特性解析:imidazopyridine 化合物による負のアロステリック作用 第 38 回日本分子生物学会年会/第 88 回日本生化学会大会合同大会 (BMB2015) 2015 年 12 月 1 日 (火) ~4 日 (金) 神戸ポートアイランド (神戸市中央区港島中町 6)
11. 佐藤幸市、当房文香、当房雅之、茂木千尋、岡島史和：脳虚血再灌流モデルマウスの脳障害におけるプロトン感知性受容体 TDAG8 の役割 第 38 回日本分子生物学会年会/第 88 回日本生化学会大会合同大会 (BMB2015) 2015 年 12 月 1 日 (火) ~4 日 (金) 神戸ポートアイランド (神戸市中央区港島中町 6)
12. 齋藤 (青木) 悠、茂木千尋、鶴巻寛朗、久田剛志、小野昭浩、古賀康彦、関香織、矢富正清、上出庸介、土橋邦生、石塚全、山田正信、岡島史和：T 細胞におけるプロトン感知性受容体 OGR1 の役割、第 56 回日本呼吸器学会学術講演会 4 月 8 日-10 日 京都国際会議場 (京都)
13. 鶴巻寛朗、齋藤 (青木) 悠、茂木千尋、久田剛志、石塚全、上出庸介、矢富正清、古賀康彦、小野昭浩、佐藤幸市、土橋邦生、山田正信、岡島史和：TDAG8 は LPS 誘導性急性肺損傷において抑制的に働く、第 56 回日本呼吸器学会学術講演会 4 月 8 日-10 日 京都国際会議場 (京都)
14. 齋藤 (青木) 悠、茂木千尋、鶴巻寛朗、矢富正清、上出庸介、古賀康彦、小野昭浩、土橋邦生、石塚全、岡島史和、久田剛志：ハウスダストマイト点鼻気管支喘息モデルにおけるプロトン感知性受容体 OGR1 の役割、第 65 回日本アレルギー学会学術大会 6 月 17 日 ~19 日 東京国際フォーラム (東京)
15. 茂木千尋、鶴巻寛朗、佐藤幸市、岡島史和：マウス急性肺傷害モデルにおける pH 感知性受容体 TDAG8 の役割、第 15 回 生命科学研究会 6 月 24 ~25 日 (ホテル メルパルク東京 (東京))

[科学研究費の取得状況]

科学研究費補助金 基盤研究(B) (代表)平成 27 年度~29 年度

「pH 環境を感知する OGR1 受容体ファミリーの作用機構と生体機能」

[その他の研究活動]

記念講演「生体機能研究会（代謝コロキウム）と歩んだ 40 年」（生体機能研究会記念講演）2016 年 7 月 1～2 日 第 15 回生体機能研究会 兵庫県立淡路夢舞台国際会議場

二国間交流事業～韓国との共同研究（代表）平成 28 年度～29 年度
「インフラマゾーム調節におけるプロトン受容体機能の欠損マウスを用いた解析」

群馬大学生体調節研究所内分泌・代謝学共同研究拠点（代表）平成 28 年度
「プロトン感知受容体の生理機能と病態での役割」

[外部委員]

2013 年～2016 年 筑波大学「博士課程教育リーディングプログラム（ヒューマンバイオロジー学位プログラム）・外部評価委員

2014 年 8 月～2016 年 7 月：独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員

[学内各種委員]

入試委員会委員

氏名 長内 有 (OSANAI You)

所属 薬学部薬学科

職名 教授

生年月日 1950 年 5 月 21 日

[履 歴]

[学 歴]

1975 年 3 月 北海道大学理学部化学第 2 学科卒業

1978 年 3 月 北海道大学理学研究科博士前期課程終了

1984 年 3 月 北海道大学理学研究科博士後期課程単位修得満期退学

[学 位]

1991 年 6 月 理学博士 (北海道大学)

[職 歴]

1980 年 4 月 北海道立札幌北高等学校非常勤講師 (定時制課程)

1983 年 3 月まで (数学)

1980 年 4 月 札幌予備学院非常勤講師 1993 年 3 月まで (化学)

1993 年 4 月 青森大学助手 (工学部情報システム工学科)

1995 年 4 月 青森大学助教授 (経営学部経営学科、総合研究所)

2004 年 4 月 青森大学助教授 (薬学部医療薬学科)

2006 年 4 月 青森大学教授 (薬学部薬学科) (現在に至る)

[受賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本物理学会、日本化学会

[教育活動]

[担当科目]

基礎化学 I、基礎化学 II、物理化学 I、物理化学 II

[卒業研究指導]

2011 年卒業研究： 2 名

2012 年卒業研究： 3 名

2013 年卒業研究： 4 名

[ゼミ指導]

薬学部担任制で各学年 3 ～ 6 名を指導

[教育指導に関する特記事項]

1. 数学および物理学の学力不足を補うため、基礎化学および物理化学の講義の中で必要に応じて高校数学・物理にまで遡って解説している。
2. 演習時間の不足を補うため、各回の講義において課題を出し、その提出をもって出席に代えていた。しかし、近年、学生の学力並びに勉学意欲の劣化に伴い白紙の提出者が増え、効果が疑わしく、対策を検討している。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 相対論効果を考慮した原子価軌道および電子相関用基底関数の開発
- (2) 配置間相互作用法による原子の電子状態の精密計算
- (3) R-行列法による原子過程の理論的研究

[著書、論文、総説]

1. T. Noro, M. Sekiya, Y. Osanai, T. Koga and H. Matsuyama: Relativistic

- Correlating basis sets for Actinide atoms from 90Th to 103Lr, *J. Comput. Chem.* 28, 2511-2516 (2007)
2. Y. Osanai, M. S. Mon, T. Noro, H. Mori, H. Nakashima, M. Klobukowski and E. Miyoshi: Revised model core potentials for first-row transition-metal atoms from Sc to Zn, *Chem. Phys. Lett.* 452, 210-214 (2008)
 3. Y. Osanai, E. Soejima, T. Noro, H. Mori, M. S. Mon, M. Klobukowski and E. Miyoshi: Revised model core potentials for second-row transition-metal atoms from Y to Cd, *Chem. Phys. Lett.* 463, 230-234 (2008)
 4. H. Mori, K. Ueno-Noto, Y. Osanai, T. Noro, T. Fujiwara, M. Klobukowski and E. Miyoshi: Revised model core potentials for third-row transition-metal atoms from Lu to Hg, *Chem. Phys. Lett.* 476, 317-322 (2009)
 5. T. Fujiwara, H. Mori, Y. Mochizuki, Y. Osanai and E. Miyoshi: 4f-in-core model core potentials for trivalent lanthanides, *Chem. Phys. Lett.* 510, 261-266 (2011)
- [学会発表]
1. M. Sekiya, T. Noro, Y. Osanai, T. Koga, and H. Matsuyama: Relativistic correlating basis sets for actinide atoms from Th to Lr, XIIth International Congress of Quantum Chemistry, Kyoto, 2006 年 5 月
 2. T. Noro, M. Sekiya, Y. Osanai, E. Miyoshi, T. Koga, and H. Tatewaki: Web Application of Segmented CGTF Basis Sets for the Atoms from H to Lr, XIIth International Congress of Quantum Chemistry, Kyoto, 2006 年 5 月
 3. 関谷 雅弘, 野呂 武司, 長内 有, 古賀 俊勝, 松山 氷, 三好 永作: Th から Lr のアクチノイド元素に対する相対論効果を考慮した電子相関用基底関数, 分子構造総合討論会, 静岡, 2006 年 9 月
 4. 長内 有, 三好 永作, 野呂 武司, 森 寛敏, 中島 久樹, Ma San Mon, M. Klobukowski: 第 1 遷移金属原子に対するモデル内殻ポテンシャルの改良, 第 1 回分子科学討論会, 仙台 2007 年 9 月
 5. 長内 有, 副島 英子, Ma San Mon, 三好 永作, 野呂 武司, 森 寛敏, M. Klobukowski: 第 2 遷移金属原子に対するモデル内殻ポテンシャルの改良, 第 2 回分子科学討論会, 福岡, 2008 年 9 月
 6. 能登 香, 森 寛敏, 長内 有, 野呂 武司, 藤原 崇幸, M. Klobukowski, 三好 永作: 第 3 遷移金属原子に対するモデル内殻ポテンシャルの改良, 第 12 回理論化学討論会, 東京, 2009 年 5 月
 7. H. Mori, K. Ueno-Noto, M. S. Mon, S. Tsukamoto, T. Zeng, T. Fujiwara, E. Soejima, Y. Osanai, T. Noro, M. Klobukowski, E. Miyoshi: Recent developments and applications of Relativistic Model Core Potentials for Heavy elements, XIIIth International Congress of Quantum Chemistry Satellite Meeting: Molecular Properties (MP2009), Oslo, Norway, 2009 年 6 月
 8. K. Ueno-Noto, H. Mori, Y. Osanai, T. Noro, T. Fujiwara, M. Klobukowski, E. Miyoshi: Revised Model Core Potential for Third-Row Transition Metal Atoms From Lu to Hg, XIIIth International Congress of Quantum Chemistry (ICQC 2009), B136, Helsinki, Finland, 2009 年 6 月
 9. 森 寛敏, 藤原 崇幸, 望月 祐志, 長内 有, 三好永作: 3 価ランタニドイオンに対する 4f-in-core モデル内殻ポテンシャル法の開発, 日本化学会 第 5 回関

東支部大会 2011, PB1b012, 小金井, 2011 年 8 月

[研究費の取得状況]

特記事項なし

[その他の活動]

[学内各種委員]

入試管理委員会

入試選抜委員会

氏名 清川 繁人 (KIYOKAWA Shigeto)

所属 薬学部薬学科

職名 准教授

生年月日 1960年7月11日

[履 歴]

[学 歴]

1984年3月 筑波大学第二学群生物学類卒業

[学 位]

1999年 農学博士 千葉大学

[職 歴]

1984年4月 協和発酵工業株式会社生物研究所研究員

1993年4月 青森大学工学部講師

2000年4月 青森大学工学部助教授

2004年4月 青森大学薬学部助教授

2007年4月 青森大学薬学部准教授

2015年4月 青森大学薬学部教授 (現在に至る)

[所属学会]

日本植物生理学会、日本植物細胞分子生物学会

[教育活動]

[担当科目]

薬学部：生化学Ⅰ、分子生物学、遺伝子工学、生化学実習、実務実習事前実習、
薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、特別実習

[卒業研究指導]

2014年 卒業研究： 4名

[ゼミ指導]

2014年度 24名

[教育指導に関する特記事項]

1. 講義ではマルチメディア機器を積極的に利用し、主に自らが撮影した独自の映像を映して学生の理解度向上を図っている。
2. 国家試験合格に向け、主に精神面でのバックアップを行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) ゲノム配列の多型解析による日本人のルーツに関する研究
- (2) 遺伝子多型解析のオーダーメイド医療への応用
- (3) ゲノム情報を利用した青森県における短命県解消への試み
- (4) 陸奥湾を回遊するイルカの生態に関する研究

[著書、論文、総説]

清川繁人 (分担執筆)： 植物バイオテクノロジー、幸書房、2009、5月

[研究助成]

公益財団法人青森学術文化振興財団助成金 「陸奥湾を回遊するイルカの生態に関する研究」

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

植物バイオテクノロジー 柏木農業高校 2010年1月

植物バイオテクノロジー 柏木農業高校 2011年1月

植物バイオテクノロジー 柏木農業高校 2012年1月
植物バイオテクノロジー 柏木農業高校 2013年1月
植物ポリフェノール 青森大学オープンカレッジ 2013年6月
植物バイオテクノロジー 柏木農業高校 2014年1月

【学内各種委員】

全学学生委員会委員、2010年4月～2015年3月
組換えDNA安全委員会委員長、2010年4月～2015年3月
ハラスメント防止対策委員会委員、2010年4月～2015年3月
学生募集委員会委員、2010年4月～2015年3月

氏名 齊藤 弘子 (SAITO Hiroko)

所属 薬学部薬学科

職名 教授

生年月日 1955 年 4 月 19 日

[履 歴]

[学 歴]

1978 年 3 月 共立薬科大学薬学部薬学科卒業

[学 位]

歯学博士

[職 歴]

1978 年 6 月 岩手医科大学歯学部歯科薬理学講座副手

1978 年 10 月 岩手医科大学歯学部歯科理工学講座助手 (歯科薬理学講座配置)

1980 年 1 月 岩手医科大学歯学部歯科薬理学助手

1980 年 4 月 盛岡市医師会附属盛岡準看護学院講師 (嘱託)

1984 年 4 月 盛岡衛生学院講師 (嘱託)

2001 年 8 月 岩手医科大学医学部薬理学実習兼坦講師

2005 年 7 月 青森大学薬学部助手

2006 年 4 月 青森大学薬学部講師

2012 年 4 月 青森大学薬学部准教授

2012 年 4 月 青森大学薬学部教授 (現在に至る)

[所属学会]

日本薬理学会、日本東洋医学会、

[教育活動]

[担当科目]

薬理学Ⅲ、薬理学実習、基礎薬学実習、化学療法学、臨床検査学、
薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ

[卒業研究指導]

2008 年度卒業研究：7 名

2009 年度卒業研究：7 名

2011 年度卒業研究：5 名

2012 年度卒業研究：4 名

2013 年度卒業研究：5 名

2014 年度卒業研究：5 名

2015 年度卒業研究：5 名

2016 年度卒業研究：1 名

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験支援のため、国家試験問題を用いて講義を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) HPLC-ECD 法を使用した各種神経伝達物質測定法の開発と応用
- (2) 行動薬理学実験に使用する新規迷路実験装置の開発と応用
- (3) 唾液腺の神経伝達物質に関する研究

[著書、論文、総説]

1. Nakagawasai, O., Onogi, H., Mitazaki, S., Sato, A., Watanabe, K., Saito,

H., Murai, S., Nakaya, K., Murakami, M., Takahashi, E., Tan-No, K., and Tadano, T., : Behavioral and neurochemical characterization of mice deficient in the N-type Ca²⁺ channel α 1B subunit. Behavioural Brain Research 208, 224-230, 2010

2. Niijima, F., Saito, H., Murai, S., Arai, U., Nakagawasai, O., Tan-No, K., Watanabe H., Hiraga, H. and Tadano, T., : Effects of atomoxetine on levels of monoamines and related substances in discrete brain regions in mice intermittently deprived of REM sleep. Biol. Pharm. Bull. 33, 617-621, 2010

3. Niijima-Yaoita, F., Tsuchiya, M., Saito, H., Nagasawa, Y., Murai, S., Arai, Y., Nakagawasai, O., Nemoto, W., Tadano, T., Tan-No, T. : Influence of a long-term powdered diet on the social interaction test and dopaminergic systems in mice. Neurochem. Int. 63, 309-315, 2013

[学会発表]

1. 斉藤弘子、佐藤栄作、加藤裕久、村井繁夫 HPLC-ECD を用いた血清カテコールアミン高速測定法-アルミナ抽出およびクロマトグラフ条件の改良、第 79 回日本薬理学会年会、横浜、2006 年 3 月

2. 佐藤毅、穂積壮一、中川西修、吉田文、斉藤弘子、新島富紀枝、丹野幸一、村井繁夫、只野武、嗅球摘出マウスにおけるコリン作動薬投与に誘発される行動変化、第 80 回日本薬理学会総会、名古屋、2007 年 3 月

3. 佐藤毅、中川西修、新島富紀枝、丹野幸一、斉藤弘子、村井繁夫、荒井裕一郎、只野武、「うつ病モデル動物における母性行動の変化：中脳辺縁系におけるドーパミン神経系の変化との関連性」、第 81 回日本薬理学会総会、横浜、2008 年 3 月

4. Niijima, F., Saito, H., Murai, S., Arai, Y. Nakagawasai, O., Tan-No, K. and Tadano, T. : Effect of atomoxetine on the levels of monoamines and their related substances in discrete brain regions of intermittent REM sleep deprived mice. XXVI CINP (Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologium) Congress, Munich, Germany, July, 2008.

5. Satoh, A., Nakagawasai, O., Onogi, H., Niijima, F., Tan-No, K., Saito, H., Murai, S., Arai, Y. and Tadano, T. : Abnormal maternal behavior induced by olfactory bulbectomy: Relationship to functions of mesolimbic dopaminergic neurons. XXVI CINP (Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologium) Congress, Munich, Germany, July, 2008.

6. 中川西 修、小野木弘志、三反崎 聖、佐藤 敦、渡辺研弥、斉藤弘子、村井繁夫、中谷孝太、望月成美、村上 学、高橋英機、新島富紀枝、丹野孝一、只野 武、N 型カルシウムチャネル α 1B サブユニット欠損マウスの行動及び神経化学的特徴、第 40 回日本神経精神薬理学会、仙台、2010 年 9 月

7. 八百板富紀枝、土谷昌広、斉藤弘子、村井繁夫、荒井裕一朗、根本互、中川西修、只野武、丹野孝一、マウスにおける食習慣の質的低下による情動行動への影響について、第 63 回日本薬理学会北部会、新潟、2012 年 9 月

8. Yaoita, F., Tsuchiya, M., Saito, H., Nagasawa, Y., Murai, S., Arai, Y., Nakagawasai, O., Nemoto, W., Tadano, T., Tan-No, K. : Influence of a long-term powdered diet on the social interaction test in mice: the role of dopaminergic systems : International Symposium for Neurosciences 2013 , 仙台, 2013 年 3 月

9. 八百板富紀枝、荒井香、下道麻夏、齊藤貴之、土谷昌広、斉藤弘子、村井繁夫、荒井裕一朗、根本互、中川西修、只野武、丹野孝一、粉末食飼育マウスにおける Social interaction の障害について、平成25年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム、仙台、2013年5月

[その他の活動]

[学内各種委員]

予算委員会委員

教務関係調整委員会委員

動物センター運営委員会委員長

学生実習委員会委員

卒業試験委員会委員

OSCE 運営委員会委員長

実務実習実施委員会委員

[学外各種委員]

青森県環境審議会委員

青森県公害審査会委員

氏名 鈴木 克彦 (SUZUKI, Katsuhiko)
所属 薬学部
職種 教授
生年月日 1967年3月20日

[履 歴]

[学 歴]

1990年3月 神奈川大学工学部応用化学科卒業
1992年3月 神奈川大学大学院理工学研究科博士前期課程修了
1996年3月 東京工業大学大学院生命理工学研究科博士後期課程修了

[学 位]

博士 (理学) 東京工業大学

[職 歴]

1996年4月 明治乳業株式会社ヘルスサイエンス研究所専任研究員
1997年4月 理化学研究所国際フロンティア研究システム研究員
1999年4月 いわき明星大学理工学部研究助手
2005年4月 株式会社三菱化学生命科学研究科主任研究員
2010年4月 (独) 科学技術振興機構 ERATO 伊藤グライコトリロジープロジェクト研究員
2011年4月 前橋工科大学非常勤講師 (2014年3月まで)
2015年4月 青森大学薬学部薬学科准教授
2016年4月 青森大学薬学部薬学科教授 (現在に至る)

[兼務歴]

2010年4月 (独) 理化学研究所伊藤細胞制御化学研究室客員研究員 (現在に至る)

[所属学会]

日本化学会、日本糖質学会、日本農芸化学会

[教育活動]

[担当科目]

有機化学Ⅰ、有機化学Ⅱ、基礎薬学実習Ⅱ、有機化学・天然物化学実習、薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、特別実習

[卒業研究指導]

5年生1名、4年生3名

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験合格支援の補講
2. 成績不振の学生に対する補講
3. 卒業研究に係る高度な研究実現に向けた他機関との連携を準備

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 生理活性物質の創製および分析
2. 人工機能性分子の開発

[著書、論文、総説]

- 1 Kanie, O.; Shioiri, Y.; Ogata, K.; Uchida, W.; Daikoku, S.; Suzuki, K.; Nakamura, S.; Ito, Y.; Diastereomeric resolution directed towards chirality determination focussing on gas-phase energetics of coordinated sodium dissociation; *Scientific Reports*, *6*, doi: 10.1038/srep24005 (2016).
- 2 Son, S. -H.; Seko, A.; Daikoku, S.; Fujikawa, K.; Suzuki, K.; Ito, Y.; Kanie, O. Endoplasmic reticulum (ER)-targeted, galectin-mediated retrograde transport using a HaloTag carrier protein; *ChemBioChem*, *17*, 630-639 (2016).
- 3 Sriwilaijaroen, N.; Suzuki, K.; Takashita, E.; Hiramatsu, H.; Kanie, O.; Suzuki, Y. 6SLN-lipo PGA specifically catches (coats) human influenza virus and synergizes neuraminidase-targeting drugs for human influenza therapeutic potential; *J. Antimicrob. Chemother.*, *70*, 2797-2809 (2015).
- 4 Daikoku, S.; Seko, A.; Son, S. -H.; Suzuki, K.; Ito, Y.; Kanie, O. The relationship between glycan structures and expression levels of an endoplasmic reticulum-resident glycoprotein, UDP-glucose: Glycoprotein glucosyltransferase 1; *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, *462*, 58-63 (2015).
- 5 Suzuki, K.; Daikoku, S.; Son, S. -H.; Ito, Y.; Kanie, O. Synthetic study of 3-fluorinated sialic acid derivatives; *Carbohydr. Res.*, *406*, 1-9 (2015).
- 6 Son, S. -H.; Daikoku, S.; Ohtake, A.; Suzuki, K.; Kabayama, K.; Ito, Y.; Kanie, O. Syntheses of lactosyl ceramide analogues carrying novel bifunctional BODIPY dyes directed towards the differential analysis of multiplexed glycosphingolipids by MS/MS using iTRAQ; *ChemCommun*, *50*, 3010-3013 (2014).
- 7 Shioiri, Y.; Suzuki, K.; Daikoku, S.; Kurimoto, A.; Ito, Y.; Kanie, O. Stereospecific generation and analysis of α - and β -hemiacetals of monosaccharides in gas phase; *Carbohydr. Res.*, *382*, 43-51 (2013).
- 8 Ohtake, A.; Daikoku, S.; Suzuki, K.; Ito, Y.; Kanie, O. Analysis of the cellular dynamics of fluorescently tagged glycosphingolipids by using a nanoLC- MS/MS platform; *Anal. Chem.*, *85*, 8475-8482 (2013).

[学会発表]

- 1 一分子修飾探針による UDP-グルコース : 糖タンパク質グルコース転移酵素 (UGGT) 1 の直接 AFM 観察 ; 第 3 4 回日本糖質学会年会 (東京、2015) 鈴木 克彦、蟹江 治、伊藤 幸成
- 2 A direct approach for visualization of glycoprotein single molecule using enhanced atomic force microscopy. Suzuki, K.; Ito, Y.; Kanie, O. SFG-JSCR joint meeting (2014, Hawaii)
- 3 1 分子修飾探針を用いた原子間力顕微鏡による糖タンパク質表面の観察 ; 第 3 3 回日本糖質学会年会 (名古屋、2014) 鈴木 克彦、伊藤 幸成、蟹江 治
- 4 シクロデキストリン結合 AFM 探針の官能基化 ; 日本化学会第 9 4 春季年会 (名古屋、2014) 鈴木克彦、伊藤幸成、蟹江 治
- 5 3-Fluorinated sialic acid derivatives; synthesis and applications. Suzuki, K.; Ohtake, A.; Daikoku, S.; Ito, Y.; Kanie, O. 5th Asian Communication of Glycobiology and Glycotechnology (2013, Khon Kaen)

[その他の活動]

科学技術振興機構の平成 27 年度伊藤グライコトリロジープロジェクト特別重点研究 (総括 : 伊藤幸成 氏、理化学研究所) に研究分担者として参画

[学内各種委員]

国試対策委員会、CBT 運営委員会、基礎学力向上委員会、学生実習委員会、薬学部学生委員会、共通機器運営委員会、危険物管理委員会、オープンキャンパス担当、入試問題作成担当、予算委員会、教務関係調整会議

氏名 永倉 透記(NAGAKURA Yukinori)

所属 薬学部薬学科

職種 准教授

生年月日 1965年

[履歴]

[学歴]

1989年3月 東京理科大学 薬学部薬学科 卒業

1991年3月 千葉大学大学院 薬学研究科 総合薬品科学専攻博士前期過程
薬効安全性学講座 修了

[学位]

1998年2月 薬学博士 千葉大学

[職歴]

1991年4月 山之内製薬(株) 創薬研究所 消化器・神経科学領域研究に従事

2005年4月 アステラス製薬(株) 研究本部薬理研究所 神経科学領域研究

2006年4月 Department of Anesthesiology, University of California San Diego, USA (指導教官: Tony L. Yaksh)に留学 麻酔・疼痛に関する研究

2007年4月 アステラス製薬(株) 研究本部 薬理研究所 疼痛に関する研究(主管研究員)

2015年4月 青森大学 薬学部 准教授 (現在に至る)

[受賞]

—

[所属学会]

日本薬理学会、International Association for Study of Pain (IASP)

[教育活動]

[担当科目]

—

[卒業研究指導]

—

[ゼミ指導]

—

[教育指導に関する特記事項]

—

[研究活動]

[研究テーマ]

- ・原因不明の痛みの機序の解明
- ・臨床を良く反映する前臨床評価方法(疾患モデル動物等)の開発
- ・ストレスと不定愁訴(消化器症状等)の関係性の解明

[著書、論文、総説]

<論文>

*: Corresponding author

1. Ishikawa G*, Koya Y, Tanaka H, Nagakura Y. Long-term analgesic effect of a single dose of anti-NGF antibody on pain during motion without notable suppression of joint edema and lesion in a rat model of osteoarthritis. *Osteoarthr Cartil* 2015 (in press).

2. Murai N*, Fushiki H, Honda S, Murakami Y, Iwashita A, Irie M, Tamura S, Nagakura Y, Aoki T. Relationship between serotonin transporter occupancies and

- analgesic effects of AS1069562, the (+)-isomer of indeloxazine, and duloxetine in reserpine-induced myalgia rats. *Neuroscience* 289:262-269, 2015.
3. Ishikawa G*, Nagakura Y, Takeshita N, Shimizu Y. Efficacy of drugs with different mechanisms of action on spontaneous pain at rest and during motion in a rat model of osteoarthritis. *Eur J Pharmacol* 738:111-117, 2014.
4. Ogino S, Nagakura Y*, Tsukamoto M, Watabiki T, Ozawa T, Oe T, Shimizu Y, Ito H. Systemic administration of 5-HT(2C) receptor agonists attenuates muscular hyperalgesia in reserpine-induced myalgia model. *Pharmacol Biochem Behav* 108:8-15, 2013.
5. Kawasaki-Yatsugi S, Nagakura Y*, Ogino S, Sekizawa T, Kiso T, Takahashi M, Ishikawa G, Ito H, Shimizu Y. Automated measurement of spontaneous pain-associated limb movement and drug efficacy evaluation in a rat model of neuropathic pain. *Eur J Pain* 16:1426-1436, 2012.
6. Nagakura Y*, Takahashi M, Noto T, Sekizawa T, Oe T, Yoshimi E, Tamaki K, Shimizu Y. Different pathophysiology underlying animal models of fibromyalgia and neuropathic pain: comparison of reserpine-induced myalgia and chronic constriction injury rats. *Behav Brain Res* 226:242-249, 2012.
7. Watabiki T, Nagakura Y*, Wegner K, Kakimoto S, Tozier NA, Malkmus SA, Yaksh TL. Assessment of canine sensory function by using sine-wave electrical stimuli paradigm. *Physiol Behav* 101:327-330, 2010.
8. Oe T, Tsukamoto M, Nagakura Y*. Reserpine causes biphasic nociceptive sensitivity alteration in conjunction with brain biogenic amine tones in rats. *Neuroscience* 169:1860-1871, 2010.
9. Nagakura Y*, Oe T, Aoki T, Matsuoka N. Biogenic amine depletion causes chronic muscular pain and tactile allodynia accompanied by depression: A putative animal model of fibromyalgia. *Pain* 146:26-33, 2009.
10. Nagakura Y, Jones TL, Malkmus SA, Sorkin L, Yaksh TL*. The sensitization of a broad spectrum of sensory nerve fibers in a rat model of acute postoperative pain and its response to intrathecal pharmacotherapy. *Pain* 139 569-577, 2008.
11. Kakimoto S*, Nagakura Y, Tamura S, Watabiki T, Shibasaki K, Tanaka S, Mori M, Sasamata M, Okada M. Minodronic acid, a third generation bisphosphonate, antagonizes purinergic P2X_{2/3} receptor function and exerts an analgesic effect in pain models. *Eur J Pharmacol* 589:98-101, 2008.
12. Nagakura Y, Malkmus S, Yaksh TL*. Determination of current threshold for paw withdrawal with sine-wave electrical stimulation in rats: Effect of drugs and alteration in acute inflammation. *Pain* 134:293-301, 2008.
13. Nagakura Y*, Kakimoto S, Matsuoka N. Purinergic P2X receptor activation induces emetic responses in ferrets and *Suncus murinus*. *Br J Pharmacol* 152:464-470, 2007.
14. Kohara A, Nagakura Y, Kiso T, Toya T, Watabiki T, Tamura S, Shitaka Y, Itahana H, Okada M*. Antinociceptive profile of a selective metabotropic glutamate receptor 1 antagonist YM-230888 in chronic pain rodent models. *Eur J Pharmacol* 571:8-16, 2007.
15. Kohara A, Toya T, Tamura S, Watabiki T, Nagakura Y, Shitaka Y, Hayashibe S, Kawabata S, Okada M*. Radioligand binding properties and pharmacological characterization of YM-298198, a high-affinity, selective and noncompetitive antagonist of metabotropic glutamate receptor type 1. *J Pharmacol Exp Ther*

315:163-169, 2005.

16.Nagakura Y*, Okada M, Kohara A, Kiso T, Toya T, Iwai A, Wanibuchi F, Yamaguchi T. Allodynia and hyperalgesia in adjuvant-induced arthritic rats: time course of progression and efficacy of analgesics. *J Pharmacol Exp Ther* 306:490-497, 2003.

17.Nagakura Y*, Kiso T, Miyata K, Ito H, Iwaoka K, Yamaguchi T. The effect of the selective 5-HT₃ receptor agonist on ferret gut motility. *Life Sci* 71:1313-1319, 2002. [IF = 2.527]

18.Kiso T*, Nagakura Y, Toya T, Matsumoto N, Tamura S, Ito H, Okada M, Yamaguchi T. Neurometer measurement of current stimulus threshold in rats. *J Pharmacol Exp Ther* 297:352-356, 2001.

19.Ito H*, Kiso T, Miyata K, Kamato T, Yuki H, Akuzawa S, Nagakura Y, Yamano M, Suzuki M, Naitoh Y, Sakai H, Iwaoka K, Yamaguchi T. Pharmacological profile of YM-31636, a novel 5-HT₃ receptor agonist, in vitro. *Eur J Pharmacol* 409:195-201, 2000.

20.Nagakura Y*, Kiso T, Ito H, Miyata K, Yamaguchi T. The role of 5-hydroxytryptamine₃ and 5-hydroxytryptamine₄ receptors in the regulation of gut motility in the ferret. *Life Sci* 66:PL331-338, 2000.

21.Watanabe K*, Nagakura Y, Hiura N, Tsuchiya S, Horie S. Stimulation of gastric acid secretion by progesterone metabolites as neuroactive steroids in anesthetized rats. *J Physiol Paris* 94:111-116, 2000.

22.Nagakura Y*, Akuzawa S, Miyata K, Kamato T, Suzuki T, Ito H, Yamaguchi T. Pharmacological properties of a novel gastrointestinal prokinetic benzamide selective for human 5-HT₄ receptor versus human 5-HT₃ receptor. *Pharmacol Res* 39:375-382, 1999.

23.Suzuki T*, Iwaoka K, Imanishi N, Nagakura Y, Miyata K, Nakahara H, Ohta M, Mase T. Synthesis of the selective 5-hydroxytryptamine 4 (5-HT₄) receptor agonist (+)-(S)-2-chloro-5-methoxy-4-[5-(2-piperidylmethyl)-1,2,4-oxadiazol-3-yl]aniline. *Chem Pharma Bull* 47:120-122, 1999.

24.Nagakura Y*, Ito H, Kiso T, Naitoh Y, Miyata K. The selective 5-hydroxytryptamine (5-HT)₄-receptor agonist RS67506 enhances lower intestinal propulsion in mice. *Jpn J Pharmacol* 74:209-212, 1997.

25.Yamano M*, Kamato T, Nagakura Y, Miyata K. Effects of gastroprokinetic agents on gastroparesis in streptozotocin-induced diabetic rats. *Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol* 356:145-150, 1997.

26.Nagakura Y*, Ito H, Kamato T, Nishida A, Miyata K. Effect of a selective 5-HT₃ receptor agonist on gastric motility in fasted and fed dogs. *Eur J Pharmacol* 327:189-193, 1997.

27.Nagakura Y*, Sohda K, Ito H, Miyata K. Gastrointestinal motor activity in conscious ferrets. *Eur J Pharmacol* 321:53-57, 1997.

28.Nagakura Y*, Naitoh Y, Kamato T, Yamano M, Miyata K. Compounds possessing 5-HT₃ receptor antagonistic activity inhibit intestinal propulsion in mice. *Eur J Pharmacol* 311:67-72, 1996.

29.Nagakura Y*, Kamato T, Nishida A, Ito H, Yamano M, Miyata K. Characterization of 5-hydroxytryptamine (5-HT) receptor subtypes influencing colonic motility in

- conscious dogs. *Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol* 353:489-498, 1996.
30. Nishida A*, Kobayashi-Uchida A, Akuzawa S, Takinami Y, Shishido T, Kamato T, Ito H, Yamano M, Yuki H, Nagakura Y, Miyata K. Gastrin receptor antagonist YM022 prevents hypersecretion after long-term acid suppression. *Am J Physiol* 269:G699-705, 1995.
31. Nishida A*, Takinami Y, Yuki H, Kobayashi A, Akuzawa S, Kamato T, Ito H, Yamano M, Nagakura Y, Miyata K. YM022 [(R)-1-[2,3-dihydro-1-(2'-methylphenacyl)-2-oxo-5-phenyl-1H-1,4-benzodiazepin-3-yl]-3-(3-methylphenyl)urea], a potent and selective gastrin/cholecystokinin-B receptor antagonist, prevents gastric and duodenal lesions in rats. *J Pharmacol Exp Ther* 270:1256-1261, 1994.
32. Kamato T*, Ito H, Nagakura Y, Nishida A, Yuki H, Yamano M, Miyata K. Mechanisms of cisplatin- and m-chlorophenylbiguanide-induced emesis in ferrets. *Eur J Pharmacol* 238:369-376, 1993.
33. Gong D, Uruno T, Nagakura Y, Matsuoka Y, Kubota K*. Effects of perfusion flow rate, prostaglandin F2 alpha, phenylephrine, and serotonin on isolated, perfused brains of spontaneously hypertensive rats. *Brain Res* 482:122-128, 1989.

<総説>

1. 永倉透記, 石川剛, 矢次さちこ, 吉見英治, 竹下暢昭, 青木俊明, 清水保明, 伊東洋行 鎮痛薬の創薬研究における新しい評価系: 前臨床/臨床評価指標の合致を目的とした動物の自発痛関連行動の自動測定 *日本薬理学会雑誌 (Folia Pharmacol Jpn)* 140:211-215, 2012.

<著書>

1. Nagakura Y, Ito H, Shimizu Y. Animal Models of Fibromyalgia. In *New Insights into Fibromyalgia*, Wilke WS eds. (Rijeka, Croatia: InTech) pp. 41-58, 2012.
2. 永倉透記, 塚本三奈, 大江智也, 伊東洋行 線維筋痛症モデル動物の試験方法 IN 疾患モデル動物の作製・評価ノウハウ集 技術情報協会、東京、2012年
3. Nagakura Y. Comorbid Depression/Anxiety in Animal Models of Chronic Pain. In *Advances in Psychology Research. Volume 89*, Alexandra M. Columbus eds. (Nova Science Publishers: New York, USA) pp. 41-58, 2012.

[学会発表]

1. Nagakura Y, Kakimoto S, Shimoshige Y, Aoki T, Matsuoka N. Purinergic P2 receptor activation induces emetic responses in ferrets and *Suncus murinus*. 739.9, *Neuroscience 2006*, Atlanta, GA, USA 2006/10/14-18.

[その他の活動]

—

[公開講座、講演、セミナー]

1. Nagakura Y, Ishikawa G, Kawasaki-Yatsugi S, Ito H. New methodologies in drug discovery research for analgesic agents: Automated measurement of spontaneous pain-associated animal behaviors for alignment of preclinical/clinical endpoints. 85th Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society, Kyoto, Japan, Mar 14-16, 2012.
2. 永倉透記 慢性疼痛治療薬の研究開発戦略: 動物モデルを用いた新しい慢性疼痛治療薬評価方法の開発、日本実験動物学会維持会員懇談会、2011年11月21日 東京
3. Nagakura Y. Reserpine-induced myalgia model. 7th Congress of the European Federation of IASP® Chapters (EFIC®) Satellite Symposium, Hamburg, Germany, Sep

19-20, 2011.

4. Nagakura Y, Akuzawa S, Naitoh Y, Ito H, Yamaguchi T, Miyata K. 5-HT₄ receptor agonists and antagonists: Their effects on gastrointestinal function and therapeutic potential. The 73rd Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society, Yokohama, Japan, Mar 23-25, 2000.

[学内各種委員]

—

氏名 中田 和一 (NAKATA Waichi)

所属 薬学部薬学科

職名 教授

生年月日 1955年12月10日

[履歴]

[学歴]

1980年3月 山形大学工学部電子工学科卒業

1982年3月 山形大学大学院工学研究科電子工学専攻修了

[学位]

工学博士

[職歴]

1982年4月 新日本無線株式会社

1992年4月 青森大学工学部電子情報工学科助手

1996年4月 青森大学工学部電子情報工学科講師

2004年4月 青森大学経営学部助教授

2007年4月 青森大学経営学部准教授

2009年4月 青森大学経営学部教授

2013年4月 青森大学薬学部教授

[所属学会]

電子情報通信学会、日本雪氷学会、日本工学教育協会

[教育活動]

[担当科目]

基礎演習、就職活動実践演習 A、情報システム論、ICT マネージメントとビジネスシステム、情報活用論演習 I および II、数的処理、物理入門、薬学のための物理、薬学のための数学 1・II、薬学総合演習 I、特別実習

[教育指導に関する特記事項]

IT パスポート国家試験支援のための講習会を夏期と冬期、年 2 回行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

- 1, ILS (計器着陸装置) に関する雪氷電波障害メカニズムの解析と対策
- 2, 生体と電磁波の相互作用について
- 3, 青森県における ITS (高度道路情報システム) 関連事業の展開

[報告書]

1. 「雪国における ICT 技術を活用したマルチモーダル・ビックデータに関する社会実験・報告書」(平成 25 年度国土交通省受託社会実験/あおり ITS 推進研究会)

[著書、論文、総説]

- 1, 横山尚志、田嶋裕久、中田和一: 「ILS GP の近傍モニタによる遠方特性推定」、電子情報通信学会論文誌 B、Vol. J94-B No. 1、P65-67、2011 年、1 月
- 2, 田嶋裕久、横山尚志、中田和一: 「電波特性の監視に関する研究 (ILS GP の近傍モニタに関する改

- 善) 」平成 20～22 年度研究報告書、平成 22 年 3 月 31 日、電子航法研究所 p21-32、p36-42
- 3, 葛西章史, 中田和一:「積雪寒冷地における防災 ITS の取り組み」, 交通工学, 平成 25 年 1 月号, Vol148, No. 1, 丸善出版, p32-35

[学会発表]

- 1, 横山、朝倉、田嶋、中田:「融雪変動を最小化する GP モニタ特性」、電子航法研究所、2006 年 6 月
- 2, 横山、朝倉、田嶋、中田:「ILS グライドパス反射面の積雪によるパス特性の変化」、電子航法研究所、2007 年 6 月
- 3, 横山、朝倉、田嶋、中田:「青森空港の積雪による LLZ のコース偏位」、電子航法研究所、2008 年 6 月
- 4, 田嶋、横山、中田:「ILS GP の近傍モニタアンテナによる遠方特性推定法の検討」電子情報通信学会総合大会、2009 年 3 月、愛媛大学
- 5, 田嶋、横山、中田:「ILS GP の近傍モニタアンテナ最適化による遠方特性推定」電子情報通信学会総合大会、2010 年 3 月、東北大学
- 6, 横山、田嶋、中田:「ILS LOC 反射面の積雪によるコース偏位」電子情報通信学会総合大会、2010 年 3 月、東北大学
- 7, 中田、横山、田嶋:「UHF 帯複素比誘電率測定用矩形同軸キャビティセンサー」電気関係学会東北支部連合大会、2010 年 8 月、八戸工業大学
- 8, A. Kasai, W. Nakata, H. Makino, H. Takayuki:” EFFORTS FOR DISASTER PREVENTION ITS IN SNOWY COLD REGIONS” , 20th ITS WORLD CONGRES TOKYO 2013, TOKYO INTERNATIONAL FORUM, Technical/Scientific Sessions, 17 October, 2013
- 9, 田嶋、二つ森、中田:「ILS LOC の積雪障害の遮蔽フェンスによる改善法」電子情報通信学会総合大会、2014 年 3 月、新潟大学
- 10, 田嶋、二つ森、中田「ILS LOC の積雪障害の遮蔽フェンスによる改善」電子情報通信学会技術研究報告 (宇宙・航空エレクトロニクス研究会), 2015 年 7 月, 電子航法研究所

[研究費の取得状況]

- 1, 「電波特性の監視に関する研究」、研究補助金 124 万円、電子航法研究所、2008 年
- 2, 「積雪空港におけるローカライザーアンテナの着雪・積雪問題に関する研究」科学研究補助金 (基盤 C) 230 万円、文部科学省、2008～2010 年
- 3, 「反射波遮蔽フェンスによるローカライザーの積雪障害の抑制に関する研究」科学研究補助金 (基盤 C) 260 万円、文部科学省、2013～2015 年
- 4, 「航空需要に対応した海上設置型ローカライザーの設置条件に関する研究」科学研究補助金 (基盤 C) 234 万円、文部科学省、2016～2018 年

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

- 1, 「暮らしの中の電磁波」、(社)青森県鍼灸マッサージ師会研修会、2009 年 11 月

[学内各種委員]

全学学生委員 (委員長)、ハラスメント防止対策委員、基礎学力向上委員

[学外各種委員]

- 1, あおもり ITS 推進研究会会長 2005 年 7 月～

- 2, 交通あおもり. COM ワーキンググループ委員 (青森県企画政策部) 2007 年度
- 3, あおもり市民百人委員会 2009 年 9 月～2010 年 9 月
- 4, 電子航法研究所客員研究員 2008 年 4 月～2010 年 3 月
- 5, 青森市総合都市交通対策協議会分科会委員 2010 年 4 月～

[その他]

- 1, 特許登録第 3956024 号: 「ILS のグライドパス装置の GP パス予測方法」
- 2, 特許登録第 3988828 号: 「誘電率測定方法および誘電率測定装置」

氏名 益見厚子 (Masumi Atsuko)

所属 青森大学薬学部

職種 教授

生年月日 1958年9月9日

[履 歴]

[学 歴]

1981年 富山医科薬科大学薬学部卒業

1983年 富山医科薬科大学大学院薬学研究科博士前期課程修了

1990年 東京医科歯科大学大学院医学研究科博士課程修了

[学 位]

1983年 薬学修士

1990年 医学博士

[職 歴]

1983-1986 富山医科薬科大学薬学部文部技官

1990-1992 国立予防衛生研究所化学部ヒューマンサイエンス振興財団流動研究員

1992-1998 国立予防衛生研究所、安全性研究部研究員

1996-1998 米国国立保健衛生研究所 visiting Fellow

1998-2015 国立感染症研究所、血液・安全性研究部主任研究官

[受 賞]

2004年 日本インターフェロン・サイトカイン学会奨励賞(学会会場:青森県三沢市)

[所属学会]

日本薬学会、日本生化学会、日本分子生物学会、日本癌学会、
日本炎症・再生医療学会、ASBMB, ISICR

[教育活動]

[担当科目]

薬理学、臨床薬理学

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

[教育指導に関する特記事項]

[研究活動]

[研究テーマ]

動物培養細胞を用いたサイトカインシグナルと転写調節

[著書、論文、総説]

原著論文

1. Fukazawa H and Masumi A. The conserved 12-amino acid stretch in the inter-bromodomain region of BET family proteins functions as a nuclear localization signal. *Biol Pharm Bull.* 35, 2064-2068 (2012).
2. Madoka Kuramitsu, Aiko Sato-Otsubo, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi, Tsutomu Toki, Kiminori Terui, Wang RuNan, Hitoshi Kanno, Shouichi Ohga, Akira Ohara, Seiji Kojima, Toshiyuki Kitoh, Kumiko Goi, Kazuko Kudo, Tadashi Matsubayashi, Nobuo Mizue, Michio Ozeki, Atsuko Masumi, Haruka Momose, Kazuya Takizawa, Takuo Mizukami, Kazunari Yamaguchi, Seishi Ogawa, Etsuro Ito, and Isao Hamaguchi. Extensive gene deletions in Japanese patients with Diamond-Blackfan anemia. *Blood*, 119, 2376-2384 (2012).
3. Masumi A. Histone acetyltransferases as regulators of nonhistone proteins: The Role of Interferon Regulatory factor acetylation on gene transcription. *J. Biomed. Biotech.* Review article, 2011: 640610 (2011).
4. Masumi A. The role for Interferon regulatory factor-2 on hematopoietic stem cells in an inflammation state. *Japanese Society of Inflammation and Regeneration.* Mini-review, 30, 531-535 (2010).
5. Ito M., Masumi A., Mochida K. Kukihara H., Moriishi K., Matsuura Y., Yamaguchi K. Mizuochi T.* Peripheral B cells may serve as a reservoir for persistent hepatitis C virus infection. *J. Innate Immunity*, 2, 607-617 (2010).
6. Fumiaki Uchiumi, Kayo Enokida, Takuma Shiraishia, Atsuko Masumi, and Sei-ichi Tanuma. Characterization of the promoter region of the human IGHMBP2 (Smbp-2) gene and its response to TPA in HL-60 cells, *Gene*, 463, 8-17 (2010).
7. Masumi, A., Ito, M., Mochida K., Hamaguchi I., Mizukami T., Momose H., Kuramitsu M., Tsuruhara M., Kato A., Yamaguchi K. Enhanced RIG-I is mediated by interferon regulatory factor-2 in peripheral blood B cell from HCV-infected patients. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 391, 1623-1628 (2010).
8. Masumi, A*, Hamaguchi, I., Kuramitsu M., Mizukami T., Takizawa K., Momose H., Naito S., Yamaguchi K. Interferon Regulatory factor-2 induces mouse hematopoietic cell differentiation in mouse hematopoietic stem cells. *FEBS Lett.* 583, 3493-3500 (2009).

総説

1. 内藤幹彦、益見厚子、臨床応用をめざした薬学の基礎研究、*薬学雑誌* Vol.133, No. 12, 1361-1362 (2013).
2. Masumi A. Hematopoietic stem cell and response to interferon, *Hematopoietic stem cell*, In *Tech book*, (2013).
3. Masumi A., Miyatake S. Kohno T. and Matsuyama T. Interferon regulatory factor-2 regulates hematopoietic stem cells in mouse bone marrow, “Advanced Hematopoietic Stem Cell”, p91-p112, In *Tech Book*, 2012
4. 益見厚子、西島正弘 (現薬学会会頭)、ワクチンアジュバントーその有効性と安全性についてー薬学的視点から考える、*薬学雑誌* Vol.131, No. 12, 1721-1722 (2011).
5. 益見厚子、向井遼三郎、第 23 章 第 2 節ワクチンの品質管理手法の項、*ワクチンの市場動向と開発・製造実務集*、技術情報協会出版、2012
6. Masumi A. NS5A interacting proteins and progress in anti-hepatitis C virus

research. Curr. Topics in Virology. Research Trend, Vol. 9, 2011

7. 益見厚子、耐性菌と抗生物質-薬学者が取り組むべき今後の課題はなにか?-富薬 (富山県薬剤師会広報誌)、第 33 巻、No. 261, 33-26, 2011

[学会発表]

細菌型チロシンキナーゼ阻害剤探索系の開発、深澤 秀輔, 益見 厚子、日本薬学会第 135 年回 (2014)

Mycobacterium avium 感染マウスの造血幹細胞の解析

益見 厚子, 持田 恵子, 滝澤 和也, 水上 拓郎, 森 茂太郎, 柴山 恵吾, 浜口 功
日本薬学会第 135 年回 (2014)

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

講演

1) 2011 年 富山大学薬学部薬学経済特別講義の講師

講義題目 “血液製剤・ワクチンの企業における品質管理について” 90 分講演

[学内各種委員]

2008 年-2014 年 日本薬学会代議員

2008 年-2013 年 日本薬学会関東支部幹事

氏名 水野 憲一 (MIZUNO, Norikazu)

所属 薬学部薬学科

職種 教授

生年月日 1963年10月8日

[履 歴]

[学 歴]

1986年3月 北海道大学薬学部製薬化学科 卒業

1991年3月 北海道大学大学院薬学研究科博士課程 修了

[学 位]

1991年3月薬学博士 北海道大学

[職 歴]

1989年4月 日本学術振興会特別研究員

1992年1月 北海道大学薬学部教務職員

1992年10月 東京工業大学生命理工学部シェリングプラウ寄附講座教員

2000年4月 東京大学医科学研究所教務補佐員

2001年4月 東京大学医科学研究所アムジェン寄付研究部門教員

2002年9月 奈良先端科学技術大学院大学 助手

2007年4月 奈良先端科学技術大学院大学 助教

2014年4月 青森大学薬学部 教授

[所属学会]

日本分子生物学会、日本生化学会、日本細胞生物学会、北米神経科学会

[教育活動]

[担当科目]

生化学 IV、機能形態学 III、機能形態学 IV、基礎薬学実習、分析化学実習、薬学総合演習 I、薬学総合演習 II

[卒業研究指導]

2015年度 5名 2016年度 4名

[研究活動]

[研究テーマ]

Gタンパク質共役受容体を介したシグナル伝達系の機能解析

[研究業績]

[原著論文]

1. Matsuoka, I., Mizuno, N., and Kurihara, K. Cholinergic differentiation of clonal rat pheochromocytoma cells (PC12) induced by retinoic acid: increase of choline acetyltransferase activity and decrease of tyrosine hydroxylase activity. *Brain Res.* 502, 53-60 (1989)
2. Mizuno, N., Matsuoka, I., and Kurihara, K. Possible involvements of intracellular Ca^{2+} and Ca^{2+} -dependent protein phosphorylation in cholinergic differentiation of clonal rat pheochromocytoma cells (PC12) induced by

- glioma-conditioned medium and retinoic acid. *Dev Brain Res.* 50, 1-10 (1989)
3. Okuse, K., Mizuno, N., Matsuoka, I., and Kurihara, K. Induction of cholinergic and adrenergic differentiation in N-18 cells by differentiation agents and DNA demethylating agents. *Brain Res.* 626, 225-233 (1993)
 4. Mitamura, S., Ikawa H., Mizuno, N., Kaziro, Y., and Itoh, H. Cytosolic nuclease activated by casapase-3 and inhibited by DFF-45. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 243, 480-484, (1998)
 5. Miyamoto Y., Yamauchi J., Mizuno N., Itoh H. The adaptor protein Nck1 mediates endothelin A receptor-regulated cell migration through the Cdc42-dependent c-Jun N-terminal kinase pathway. *J. Biol. Chem.* 279, 34336-34342 (2004)
 6. Mizuno N., Kokubu H., Sato M., Nishimura A., Yamauchi J., Kurose H., Itoh H. G protein-coupled receptor signaling through Gq and JNK negatively regulates neural progenitor cell migration. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA.* 102, 12365-12370 (2005)
 7. Nishimura A., Okamoto M., Sugawara, Y., Mizuno N., Yamauchi J., Itoh H. Ric-8A potentiates Gq-mediated signal transduction by acting downstream of G protein-coupled receptor in intact cells. *Genes Cells* 11, 487-498 (2006)
 8. Sugawara Y., Nishii H., Takahashi T., Yamauchi J., Mizuno N., Tago K., Itoh H. The lipid raft proteins flotillins/reggies interact with G alpha q and are involved in Gq-mediated p38 mitogen-activated protein kinase activation through tyrosine kinase. *Cell. Signal.* 19, 1301-1308 (2007)
 9. Urano, D., Nakata A., Mizuno N., Tago K., Itoh H. Domain-domain interaction of P-Rex1 is essential for the activation and inhibition by G protein betagamma subunits and PKA. *Cell. Signal.* 20, 1545-1554 (2008)
 10. Iguchi T., Sakata K., Yoshizaki K., Tago K., Mizuno N., Itoh H. Orphan G protein-coupled receptor GPR56 regulates neural progenitor cell migration via a G alpha 12/13 and Rho pathway. *J. Biol. Chem.* 283, 14469-14478 (2008)
 11. Nakata A., Urano D., Fujii-Kuriyama Y., Mizuno N., Tago K. , Itoh H. G-protein signalling negatively regulates the stability of aryl hydrocarbon receptor. *EMBO Rep.* 10, 622-628 (2009)
 12. Nagai Y., Nishimura A., Tago K., Mizuno N., Itoh H. Ric-8B stabilizes the alpha subunit of stimulatory G protein by inhibiting its ubiquitination. *J. Biol. Chem.* 285, 11114-11120 (2010)
 13. Tago K., Funakoshi-Tago M., Sakinawa M., Mizuno N., Itoh H. KappaB-Ras is a nuclear-cytoplasmic small GTPase that inhibits NF-kappaB activation through the suppression of transcriptional activation of p65/RelA. *J. Biol. Chem.* 285, 30622-30633 (2010)
 14. Nishimura A., Kitano K., Takasaki J., Taniguchi M., Mizuno N., Tago K., Hakoshima T., Itoh H. Structural basis for the specific inhibition of heterotrimeric Gq protein by a small molecule. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA.* 107, 13666-13671 (2010)
 15. Toriyama M., Mizuno N., Fukami T., Iguchi T., Toriyama M., Tago K. Itoh H. Phosphorylation of Doublecortin by Protein Kinase A Orchestrates

Microtubule and Actin Dynamics to Promote Neuronal Progenitor Cell Migration *J. Biol. Chem.* 287, 12691-12702 (2012)

16. Saito Y., Kaneda K., Suekane A., Ichihara E., Nakahata S., Yamakawa N., Nagai K., Mizuno N., Kogawa K., Miura I., Itoh H., Morishita K. Maintenance of the hematopoietic stem cell pool in bone marrow niches by EVI1-regulated GPR56. *Leukemia*. 27, 1637-1649 (2013)
17. Jenie R.I., Nishimura M., Fujino M., Nakaya M., Mizuno N., Tago K., Kurose H., Itoh H. Increased ubiquitination and the crosstalk of G protein signaling in cardiac myocytes: involvement of Ric-8B in Gs suppression by Gq signal. *Genes Cells*. 18, 1095-1106 (2013)
18. Ohta S, Sakaguchi S, Kobayashi Y, Mizuno N., Tago K, Itoh H. Agonistic Antibodies Reveal the Function of GPR56 in Human Glioma U87-MG Cells. *Biol Pharm Bull.* 38, 594-600 (2015)

[総説]

1. 水野憲一, 伊東 広 Caspase ファミリーとアポトーシス *医学のあゆみ* 187, 318-323 (1998)
2. 水野憲一, 伊東 広 Caspase ファミリーとアポトーシス *臨床免疫* 32, 426-434 (1999)
3. 水野憲一, 伊東 広 カスパーゼとアポトーシスにおける核断片化 *血液・腫瘍科* 40, 346-353 (2000)
4. 水野憲一, 横田 崇 神経幹細胞の自己再生メカニズム *Clinical Neuroscience* 20, 38-40 (2002)
5. 水野憲一, 横田 崇 ES 細胞の神経分化はどこまで解明されたか *総合臨牀* 51, 42-46 (2002)
6. 水野憲一, 横田 崇 ES 細胞から神経分化へ 再生医学再生医療 (現代化学増刊 41), 59-62 (2002)
7. Mizuno N. Itoh H. Functions and regulatory mechanisms of Gq-signaling pathways. *Neurosignals*.17, 42-54 (2009)
8. 水野憲一 青森大学薬学部の紹介 *医薬品相互作用研究* 39, 46(2016)
9. 平尾航、五戸木実、水野憲一 機能抗体作製のためのオーファン受容体 GPR126 の 精製 *医薬品相互作用研究* 39 47-49 (2016)

[著書]

1. 松岡一郎, 水野憲一, 栗原堅三 コリン作動性神経分化因子の特性と作用機作 *脳の神経栄養因子と先天性代謝異常*; 平凡社、141-157. (1989)
2. Mizuno N., and Itoh H. Signal transduction mediated through adhesion GPCRs. *Adv. Exp. Med. Biol.* 706, 157-166. (2010)

[学会発表]

1. 永井裕介、水野憲一、多胡憲治、伊東 広 三量体 G タンパク質 G α s のユビキチン

- 化は Ric-8B との結合により抑制される第 82 回日本生化学会大会 2009 年 10 月 24 日 兵庫県神戸市
2. 吉田真奈美、水野憲一、伊東広 G タンパク質シグナルによる doublecortin のリン酸化と細胞遊走の解析 第 82 回日本生化学会大会 2009 年 10 月 22 日 兵庫県神戸市
 3. Yusuke Nagai, Norikazu Mizuno, Kenji Tago, Hiroshi Itoh, Ric-8B accelerates Gs signaling through the stabilization of the α subunit of stimulatory G protein The American Society for Cell Biology 49th annual meeting 2009 年 12 月 7 日 San Diego, CA, USA
 4. 鳥山真奈美、水野憲一、多胡憲治、伊東 広 Doublecortin のリン酸化を介した Gs-PKA シグナルによる神経前駆細胞の遊走促進 第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回日本生化学会大会 合同大会 (BMB2010) 2010 年 12 月 10 日兵庫県神戸市
 5. 水野憲一、伊東 広 大脳皮質形成における神経前駆細胞移動の G 蛋白質シグナルによる多重制御機構 第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回日本生化学会大会 合同大会 (BMB2010) 2010 年 12 月 7,10 日 兵庫県神戸市
 6. Manami Toriyama, Norikazu Mizuno, Kenji Tago, Hiroshi Itoh Phosphorylation of doublecortin by G protein-PKA signaling regulates neuronal progenitor cell migration American Society for Neurochemistry 42nd Annual Meeting 2011 年 3 月 20,21 日 St. Louis, Missouri USA
 7. Norikazu Mizuno, Manami Toriyama, Hiroshi Itoh Multi-regulation of neuronal progenitor migration by G protein signaling American Society for Neurochemistry 42nd Annual Meeting 2011 年 3 月 22,23 日 St. Louis, Missouri USA
 8. 鳥山真奈美 Gs-PKA シグナルによる微小管結合タンパク質 doublecortin の新規機能の獲得第 58 回日本生化学会近畿支部例会 2011 年 5 月 21 日大阪守口市
 9. 鳥山真奈美、猪口徳一、深見岳史、多胡憲治、水野憲一、伊東広 微小管結合タンパク質 doublecortin の PKA によるリン酸化を介した新規アクチン骨格制御 第 84 回日本生化学会 2011 年 9 月 24 日京都府京都市
 10. 多胡憲治、多胡めぐみ、Chiocca Susanna, 水野憲一、伊東広 G タンパク質シグナルにより制御される SUMO 化とその分子機構の解析 第 84 回日本生化学会 2011 年 9 月 24 日京都府京都市
 11. Shigeyuki Ota, Norikazu Mizuno, Hiroshi Itoh. Glycosylation of GPR56 extracellular domain affects on the signaling and the GPS cleavage 第 34 回日本分子生物学会 2011 年 12 月 15 日、16 日 神奈川県横浜市
 12. Kenji Tago, Megumi Funakoshi-Tago, Yoichiro Fukao, Naoyuki Sugiyama, Masaru Tomita, Norikazu Mizuno, Hiroshi Itoh Functional involvement of an atypical nuclear-cytoplasmic small GTPase K-Ras in oncogenic signaling pathway 第 34 回日本分子生物学会 2011 年 12 月 16 日神奈川県横浜市
 13. Riris Jenie, Motoki nishimura Kenji Tago, Norikazu Mizuno, Hiroshi Itoh Involvement of Ric-8 in the $G\alpha_q$ -induced suppression of Gs signaling 第 34 回日本分子生物学会 2011 年 12 月 16 日神奈川県横浜市
 14. Naoto Sasai, Jyunkyung Kang, Shigeyuki Ohta, Kenji Tago, Norikazu Mizuno, Hiroshi Itoh. N-terminal fragment of Latrophilin1 negatively regulates the adhesion GPCR-induced signals 第 34 回日本分子生物学会 2011 年 12 月 16 日神奈川県横浜市
 15. Kenta Takami, Takuma Kanesaki, Akiyuki Nishimura, Yusuke Nagai, Kenji Tago, Norikazu Mizuno, Naoyuki Fuse, Hiroshi Itoh. Analysis of non-receptor type of G

protein regulator Ric-8 involved in Drosophila gastrulation 第34回日本分子生物学会 2011年12月16日神奈川県横浜市

16. Manami Toriyama, Norikazu Mizuno, Tokuichi Iguchi, Michinori Toriyama, Takashi Fukami, Kenji Tago, Hiroshi Itoh Doublecortin orchestrates microtubule and actin dynamics to promote neuronal progenitor cell migration in a manner dependent on phosphorylation by PKA 2011 Annual meeting, ASCB 2011年12月4日 DENVER, U.S.A.
17. 鯉森貴行、小林哲夫、水野憲一、伊東広 $G\alpha_s$ ユビキチン修飾を制御する分子機構の解析 第36回日本分子生物学会 2013年12月3-5日 兵庫県神戸市
18. 根岩直希、水野憲一、小林哲夫、伊藤友里、伊東広 LGR5の発現とシグナル伝達の解析 第36回日本分子生物学会 2013年12月3-5日 兵庫県神戸市
19. 野島悠佑、水野憲一、伊東広 神経細胞の分化に伴う GPR56の発現パターンの変化 第36回日本分子生物学会 2013年12月3-5日 兵庫県神戸市
20. 水野憲一, Riris Istighfari Jenie, 仲矢道雄、多胡憲治、黒瀬等、伊東広. 心筋細胞での G_q シグナルによる G_s 抑制機構に対する Ric-8Bの関与 第86回日本生化学会年会 2013年9月11-14日 神奈川県横浜市
21. 水野憲一、太田茂之、小林祐希、坂口さやか、伊東広 機能抗体を用いた癌細胞における GPR56の機能解析 Functional analysis of GPR56 in tumor cells using the monoclonal antibodies 第66回日本細胞生物学会大会 2014年6月 奈良県奈良市
22. 平尾航、水野憲一 機能抗体作製のためのオーファン受容体 GPR126の精製 第86回日本薬会東北支部大会 2015年9月26日 岩手県盛岡市

[その他の活動]

2015年11月5日 青森中央高校 模擬講義「薬学部の魅力とは...なぜ薬学部で学ぶのか」

2016年6月13日 五所川原第一高等学校 模擬講義「薬の発見とその変遷」

[研究費の取得状況]

科学研究費補助金 基盤研究 (C) (代表) 平成18年度～平成19年度

「大脳皮質形成における G タンパク質シグナル」

科学研究費補助金 特定領域研究 (代表) 平成19年度～平成20年度

「新規活性調節因子による三量体 G 蛋白質制御機構の構造学的解析」

科学研究費補助金 基盤研究 (C) (代表) 平成21年度～平成23年度

「大脳皮質形成における G タンパク質共役受容体シグナルの機能抗体を用いた解析」

科学研究費補助金 基盤研究 (C) (代表) 平成24年度～平成26年度

「大脳皮質形成における多様な G タンパク質シグナル制御機構の解析」

[学内各種委員]

教務関係調整会議 (委員長)、教務 (カリキュラム編成) 委員会 (委員長)、国試対策委員会、入試選抜委員会 (副委員長)、入試管理委員会 (副委員長)、予算委員会、共通機器運営委員会、動物センター運営委員会、薬学教育評価機構対策委員会、日本高等教育評価機構対策委員会 (副委員長)

氏名 植木 章晴 (UEKI Akiharu)

所属 薬学部

職種 准教授

生年月日 1973年08月24日

[履 歴]

[学 歴]

- 1996年3月 京都薬科大学薬学部製薬化学科卒業
- 1999年3月 京都薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻修士課程修了
- 2002年3月 徳島大学大学院薬学研究科薬品科学専攻博士後期課程修了

[学 位]

博士(薬学) 徳島大学

[職 歴]

- 2002年4月 米国カンザス州立大学化学科 博士研究員
- 2003年4月 独立行政法人 理化学研究所 伊藤細胞制御化学研究室
科学技術振興機構 さきがけ さきがけ研究員
- 2005年11月 東海大学工学部生命化学科 博士研究員
- 2010年6月 岐阜大学応用生物科学部
WPIプログラム京都大学物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS)
博士研究員
- 2015年6月 岐阜大学応用生物科学部 特別協力研究員
- 2016年4月 青森大学薬学部薬学科准教授 (現在に至る)

[受 賞]

- 2014年4月 日本農芸化学会 2014年度大会トピックス賞
- 2015年3月 2014年糖鎖科学中部拠点奨励賞

[所属学会]

日本薬学会、日本化学会、日本農芸化学会、日本糖質学会

[教育活動]

[担当科目]

有機化学 III、有機合成化学、有機化学・天然物化学実習、薬学基礎実習 II、薬学総合演習 I、薬学総合演習 II、特別実習

[卒業研究指導]

2016年度 2名

[ゼミ指導]

薬学部担任制により3名を指導

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験支援のため、補講を行っている。
2. 共用試験 (CBT) 支援のため、補講を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

生理活性物質の創成に向けた新反応および新規合成法の開発とその応用

[著書、論文、総説]

1. Kobayashi, D.; Ueki, A.; Yamaji, T.; Nagao, K.; Imamura, A.; Ando, H.; Kiso, M.; Ishida, H. Efficient Synthesis of the Lewis A Tandem Repeat. *Molecules* **2016**, *21*, 614.

2. Ueki, A.; Mino, Y.; Un, K.; Yoshida, M.; Kawakami, S.; Ando, H.; Ishida, H.; Yamashita, F.; Hashida, M.; Kiso, M. Synthesis and evaluation of glyco-coated liposomes as drug carrier for positive targeting in drug delivery systems. *Carbohydr. Res.* **2015**, *405*, 78-86.
3. Hojo, H.; Tanaka, H.; Hagiwara, M.; Asahina, Y.; Ueki, A.; Katayama, H.; Nakahara, Y.; Yoneshige, A.; Matsuda, J.; Ito, Y.; Nakahara, Y. Chemoenzymatic synthesis of hydrophobic glycoprotein: synthesis of saposin C carrying complex-type carbohydrate. *J. Org. Chem.* **2012**, *77*, 9437-9446.
4. Hagiwara, M.; Dohi, M.; Nakahara, Y.; Komatsu, K.; Asahina, Y.; Ueki, A.; Hojo, H.; Nakahara, Y.; Ito, Y. Synthesis of biantennary complex-type nonasaccharyl Asn building blocks for solid-phase glycopeptide synthesis. *J. Org. Chem.* **2011**, *76*, 5229-5239.
5. Hojo, H.; Ozawa, C.; Katayama, H.; Ueki, A.; Nakahara, Y.; Nakahara, Y. The mercaptomethyl group facilitates an efficient one-pot ligation at Xaa-Ser/Thr for (glyco)peptide synthesis. *Angew. Chem. Int. Ed.* **2010**, *49*, 5318-5321.
6. Ueki, A.; Takano, Y.; Kobayashi, A.; Nakahara, Y.; Hojo, H.; Nakahara, Y. Solid-phase synthesis of glycopeptide carrying a tetra-*N*-acetylactosamine-containing core 2 deca-saccharide. *Tetrahedron* **2010**, *66*, 1742-1759.

[学会発表]

1. Ueki, A.; Unga, J.; Higuchi, Y.; Kawakami, S.; Ando, H.; Ishida, H.; Yamashita, F.; Hashida, M.; Kiso, M. Synthesis and evaluation of sialyl Lewis X -coated liposomes for drug delivery system. Sialoglyco2014 (Gold Coast, Australia, 2014)
2. 植木章晴, 美濃由佳, 運 敬太, Johan Unga, 樋口ゆり子, 川上 茂, 安藤弘宗, 石田秀治, 山下富義, 橋田 充, 木曾 真, DDS を指向した糖鎖修飾リポソームの合成と機能評価. 第 33 回日本糖質学会年会 (愛知, 2014)
3. 植木章晴, Johan Unga, 樋口ゆり子, 川上 茂, 安藤弘宗, 石田秀治, 山下富義, 橋田 充, 木曾 真, DDS を指向したシアリルルイス X 修飾リポソームの合成と機能評価. 日本農芸化学会 2014 年度大会 (神奈川, 2014)
4. Ueki, A.; Unga, J.; Higuchi, Y.; Kawakami, S.; Ando, H.; Ishida, H.; Yamashita, F.; Hashida, M.; Kiso, M. Synthesis of novel glycolipid with sialyl Lewis X epitope and evaluation of glyco-coated liposomes for DDS. 27th International Carbohydrate Symposium (Bangalore, India, 2014)
5. 植木章晴, 美濃由佳, 運 敬太, 吉田 允, 川上 茂, 安藤弘宗, 石田秀治, 山下富義, 橋田 充, 木曾 真, DDS を目的とした糖修飾コレステロールの合成と機能評価. FCCA セミナー/FCCA グライコサイエンス若手 フォーラム 2012 (鹿児島, 2012)
6. 植木章晴, 美濃由佳, 運 敬太, 吉田 允, 川上 茂, 安藤弘宗, 石田秀治, 山下富義, 橋田 充, 木曾 真, DDS を指向した糖修飾リポソームの合成と機能評価. 日本農芸化学会 2012 年度大会 (京都, 2012)
7. 植木章晴, 美濃由佳, 運 敬太, 吉田 允, 川上 茂, 安藤弘宗, 石田秀治, 山下富義, 橋田 充, 木曾 真, DDS を指向した糖修飾リポソームの合成と機能評価. 第 9 回糖鎖科学名古屋拠点「若手の力」フォーラム (岐阜, 2011)
8. 植木章晴, 森 和弘, 中原悠子, 北條裕信, 中原義昭, 集積化 Gal β (1 \rightarrow 3)GlcNAc の合成研究. 日本農芸化学会 2010 年度大会 (東京, 2010)

[学内各種委員]

入試問題作成担当委員、薬学部学生委員会委員

氏名 大越 絵実加 (OHKOSHI Emika)

所属 薬学部

職種 准教授

生年月日 1971年01月12日

[履 歴]

[学 歴]

1993年3月 日本大学薬学部薬学科卒業

1996年3月 日本大学大学院薬学研究科薬学専攻博士前期課程修了

[学 位]

博士(薬学) 日本大学

[職 歴]

1993年4月 日本大学薬学部薬品化学研究室副手

1996年4月 日本大学薬学部生薬学研究室助手

1998年4月 株式会社エイエルエイ中央研究所研究員

2004年8月 株式会社キリンビール基盤技術研究所(横浜)研究員

2006年4月 奥羽大学薬学部助手

2009年11月 Research assistant professor temporary University of North Carolina
at Chapel Hill

2012年12月 明海大学歯学部MPL研究教育助教

2015年4月 青森大学薬学部准教授

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本薬学会、日本生薬学会

[教育活動]

[担当科目]

薬学基礎実習II、有機化学・天然物化学実習、機器分析学(分担)、医薬品化学、
特別実習(卒業研究)、総合演習I, II(分担)、学問のすすめ(分担)、
キャリアデザインIA(薬草園見学)、キャリアデザインIB、教員免許更新教職講習

[卒業研究指導]

2015年度 2名、2016年度 3名

[ゼミ指導]

薬学部担任制で指導

1年生 2名、2年生 6名、3年生 2名

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験支援のため、補講を行っている。
2. 薬用植物園見学を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 天然物由来成分の単離・構造解析および生物活性
2. 漢方方剤中の多成分系に関する新規生物活性
3. 機能性食品の素材開発

[著書、論文、総説]

1. Wang SB, Cui MT, Wang XF, **Ohkoshi E**, Goto M, Yang DX, Li L, Yuan S, Morris-Natschke SL, Lee KH, Xie L. Synthesis, biological evaluation, and physicochemical property assessment of 4-substituted 2-phenylaminoquinazolines as Mer tyrosine kinase inhibitors., *Bioorganic & Medicinal Chemistry*, 24:3083-92 (2016)
2. Wang SB, Wang XF, Qin B, **Ohkoshi E**, Hsieh KY, Hamel E, Cui MT, Zhu DQ, Goto M, Morris-Natschke SL, Lee KH, Xie L., Optimization of N-aryl-6-methoxy-1,2,3,4-tetrahydroquinolines as tubulin polymerization inhibitors., *Bioorganic & medicinal chemistry* 23: 5740-5747 (2015)
3. Wada K, **Ohkoshi E**, Zhao Y, Goto M, Morris-Natschke SL, Lee KH., Evaluation of Aconitum diterpenoid alkaloids as antiproliferative agents., *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters.*, 25:1525-31 (2015)
4. Nakagawa-Goto K, Oda A, Hamel E, **Ohkoshi E**, Lee KH, Goto M. Development of a Novel Class of Tubulin Inhibitor from Desmosdumotin B with a Hydroxylated Bicyclic B-Ring., *Journal of Medicinal Chemistry.*, 58: 2378-2389 (2015)
5. Ohno H., Miyoshi S., Araho D., Kanamoto T., Terakubo S., Nakashima H., Tsuda T., Sunaga K., Amano S., **Ohkoshi E.**, Sakagami H., Satoh K., Yamamoto M., Efficient utilization of Licorice root by alkaline extraction., *In vivo.*, 28: 785-794 (2014)
6. Sakagami H., **Ohkoshi E.**, Kato T., Shimoyama T., Kitajima M., Oizumi H., Oizumi T., Inhibition of PGE₂ production by Sasa Senanensis Rehder alkaline extract in IL-1 β -stimulated human gingival and periodontal ligament fibroblasts., *Journal of Pharmacological Sciences.*, 124:113-116 (2014)
7. Wang XF., Guan F., **Ohkoshi E.**, Guo W., Wang L., Zhu DQ., Wang SB., Wang LT., Hamel E., Yang D., Li L., Qian K., Morris-Natschke SL., Yuan S., Lee KH., Xie L., Optimization of 4-(N-cycloamino)phenylquinazolines as a novel class of tubulin polymerization inhibitors targeting the colchicine site., *Journal of Medicinal Chemistry*, 57:1390-1402 (2014)
8. Yu FL., He XY., Gu C., **Ohkoshi E.**, Wang LT., Wang SB., Lai CY., Yu L., Morris-Natschke SL., Lee KH., Xie L., Discovery of novel antitumor dibenzocyclooctatetraene derivatives and related biphenyls as potent inhibitors of NF- κ B signaling pathway, *Bioorganic & Medicinal Chemistry*, 22:325-333 (2014)
9. Wang XF., Guan F., **Ohkoshi E.**, Guo W., Wang L., Zhu DQ., Wang SB., Wang LT., Hamel E., Yang D., Li L., Qian K., Morris-Natschke SL., Yuan S., Lee KH., Xie L., Optimization of 4-(N-cycloamino)phenylquinazolines as a novel class of tubulin polymerization inhibitors targeting the colchicine site., *Journal of Medicinal Chemistry*, 57:1390-1402 (2014)

(他 1998 年～2013 年 29 報原著論文査読有)

【著書】

1. 坂上宏、新井友理、久野貴史、久保英範、染川正多、高野頌子、津島浩憲、三次義人、秋田紗世子、健石雄、**大越絵実加**、田中庄二、松本勝、安井利一、伊藤一芳、牧純、渡邊康一、北嶋まどか、堀内美咲、買俊業、大泉浩史、大泉高明、ササヘルス配合歯磨剤の口腔環境改善効果：口臭と舌細菌数の相関、*New Food Industry* 56: 27-35 (2014)
2. 坂上宏、**大越絵実加**、松田友彦、田中正二、松本勝、安井利一、渡邊康一、北嶋まどか、堀内美咲、買俊業、大泉浩史、大泉高明、オーラルヘルスケア機能性食品の開発と応用—アンチエイジングを目指した口腔ケアを中心に—第3編企業の開発動向 第5章抗ウイルス素材 1.クマザサ葉抽出液「ササヘルス」配合歯磨剤 シーエムシー出版 12月(2013)

【学会発表】

1. 村上浩一¹、本木雅大¹、**大越絵実加**¹、梅村直己²、上田條二¹、(¹青森大・薬、²朝日大・歯) 頭頸部扁平上皮癌の CD44 過剰発現は細胞周期 G2/M 期の DNA 修復シグナル経路による mitotic catastrophe に抵抗する 2016 年 03 月日本薬学会第 136 年会 (パシフィコ横浜)
2. 本木雅大¹、村上浩一¹、**大越絵実加**¹、梅村直己²、上田條二¹、(¹青森大・薬、²朝日大・歯) 青森県産食品素材に関する研究—干菊の成分研究第 2 報— 2016 年 03 月日本薬学

会第 136 年会 (パシフィコ横浜)

3. 村上浩一¹、本木雅大¹、大越絵実加¹、梅村直己²、上田條二¹、(¹青森大・薬、²朝日大・歯) 青森県産食品素材に関する研究—干菊の成分研究— 2015 年 09 月第 54 回日本薬学会東北支部大会 (岩手医科大学)

4. 大越絵実加¹、梅村直己²、坂上宏² (¹明海大・歯・MPL、²明海大・歯・薬理) 漢方製剤柴胡剤に含まれるバイカリンおよびバイカレインは頭頸部扁平上皮癌がん幹細胞マーカーCD44 を刺激する 2014 年 03 月日本薬理学会 87 年会仙台

5. 梅村直己¹、大越絵実加¹、南部俊之^{1,2}、嶋田淳²、坂上宏¹ (¹明海大・歯・薬理、²明海大・歯・口腔外科) 頭頸部扁平上皮がん幹細胞を標的とした化学療法 2014 年 03 月日本薬理学会 87 年会仙台

6. 大越絵実加¹、梅村直己²、坂上宏² (¹明海大・歯・MPL、²明海大・歯・薬理) 頭頸部扁平上皮癌における berberine の Notch-1 のダウンレギュレーション 2014 年 9 月第 56 回歯科基礎医学会学術大会(福岡)

7. 大越絵実加¹、梅村直己²、坂上宏² (¹明海大・歯・MPL、²明海大・歯・薬理) 生薬に含まれるバイカレインは頭頸部扁平上皮癌の CD44 を過剰に刺激することによって細胞周期 G2/M 期のアポトーシス抵抗性を増幅する。2015 年 03 月日本薬理学会 88 年会名古屋

(他 1994 年～2013 年国際学会 2 演題を含む 23 演題学会発表)

【研究費の取得状況】

1. 学術研究助成基金助成金 平成 26-28 年度 基盤研究 C (代表者: 大越 絵実加)

口腔癌がん幹細胞の標的治療(抗 CD44 療法)後に誘発される多剤耐性化の解明と克服

2. 独立行政法人日本学術振興会 H28 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI (研究成果の社会還元・普及事業) 実施代表者: 大越 絵実加 ¥344,000

【その他の活動】

青大薬すこやか成分研究会 (青森市まちなかフィールドスタディ支援事業)

【公開講座、講演、セミナー】

1. 中高生の薬剤師体験セミナー

(2016 年 7 月 30 日共催:秋田県大館市、2016 年 8 月 27-28 日共催:青森県教育委員会)

2. 出張薬剤師体験セミナー

(2016 年 9 月 17 日 むつ下北会場、18 日 弘前会場、19 日 五所川原会場)

3. 出張講義: 医薬品以外の薬学分野—機能性食品: 天然物由来の肥満改善素材—
大野女性大学・大学院 (2016 年 12 月 13 日大野市民センター大会議室)

【学内各種委員】

オープンキャンパス担当委員長、卒業試験委員会委員、OSCE 運営委員会委員、
共通機器運営委員会委員長、薬用植物園運営委員会委員長、生涯教育・同窓会委員、
ハラスメント防止対策委員会委員

氏名 金光 兵衛 (KANEMITSU Hyoe)

所属 薬学部薬学科

職名 准教授

生年月日 1967 年 8 月 30 日

[履歴]

[学歴]

1992 年 3 月 北海道大学薬学部薬学科卒業

1994 年 3 月 北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了

2004 年 3 月 大阪市立大学大学院医学研究科博士課程修了

[学位]

博士 (医学)

[職歴]

1994 年 4 月～2000 年 3 月 北海道医療大学薬学部助手 (免疫微生物学教室)

2004 年 4 月 青森大学薬学部医療薬学科助手 (生体分析化学研究室)

2006 年 4 月 青森大学薬学部薬学科講師 (生体分析化学研究室)

2010 年 4 月 青森大学薬学部准教授 (現在に至る)

[所属学会]

日本生化学会、日本神経化学会、補体研究会

[教育活動]

[担当科目]

分析化学、生体分析化学、薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、実務実習事前学習、基礎薬学実習、分析化学・放射化学実習、地域貢献基礎演習、創薬学概論

[卒業研究指導]

2006 年度 卒業研究 (生物工学科) : 1 名

2007 年度 卒業研究 (薬学部) : 2 名

2008 年度 卒業研究 (薬学部) : 1 名

2011 年度 卒業研究 (薬学部) : 3 名

2012 年度 卒業研究 (薬学部) : 2 名

2013 年度 卒業研究 (薬学部) : 3 名

2014 年度 卒業研究 (薬学部) ; 1 名

[ゼミ指導]

2006 年度 : 4 名

2007 年度 : 7 名

2008 年度 : 8 名

2009 年度 : 12 名

2010 年度 : 14 名

2011 年度 : 17 名

2012 年度 : 17 名

2013 年度 : 18 名

2014 年度 : 14 名

[教育指導に関する特記事項]

1. 「分析化学」、「生体分析化学」に関しては、講義の理解度を深めるために、一つ前の講義内容に関する小テストを毎時間実施している。
2. 「分析化学実習」に関しては、実習内容の理解度を深めるためとプレゼンの練習を兼ねて、課題を与えそれに対するディスカッションを実施している。

3. 薬剤師国家試験支援のための補講を行っている。
4. 共用試験 (CBT) 支援のための補講を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) SRCR ドメインを有するタンパク質の機能解析に関する研究
- (2) アルツハイマー病の発症機構の解明と治療薬の探索

[著書、論文、総説]

Tomiyama T., Nagata T., Shimada H., Teraoka T., Fukushima A., Kanemitsu H., Takuma H., Kuwano R., Imagawa M., Ataka S., Wada Y., Yoshioka E., Nishizaki T., Watanabe Y., Mori H.: A new amyloid β variant favoring oligomerization in Alzheimer-type dementia. *Ann Neurol.*, 63, 377-387 (2008)

[学会発表]

1. 金光兵衛、藤友千夏、柳谷和美、熊崎隆：cSRCR は LPS と結合する。
第 83 回 日本生化学大会 (BMB2010)、神戸、2010 年 12 月
2. 金光兵衛、熊崎隆：タンパク質分解酵素を用いた cSRCR の cHb 結合部位の探索
第 81 回 日本生化学大会 (BMB2008)、神戸、2008 年 12 月
3. Kanemitsu H., Saitou C., Kato S., Tanaka R., Mori T., Kumazaki T. :
Molecular characterization of chicken SRCR 第 80 回 日本生化学大会
(BMB2007)、横浜、2007 年 12 月

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

タンパク質の異常とその疾患：第 17 回カントリージェントルマン会 2007 年 3 月
生命科学の最前線 ～病気とタンパク質～：教員免許状更新講習 2009 年 7 月
生命科学の最前線 ～病気とタンパク質～：教員免許状更新講習 2010 年 7 月

[学内各種委員]

全学: FD 委員会、組換え DNA 実験安全委員会

薬学部：国試対策委員会 (委員長)、中央機器運営委員会 (委員長)、教務委員会、
CBT 運営委員会、OSCE 運営委員会、事前学習実施委員会、実務実習実施委
員会、ワークショップ委員会、動物センター運営委員会

氏名 上家 勝芳 (KAMIIE Katsuyoshi)

所属 薬学部薬学科

職種 准教授

生年月日 1967年7月6日

[履 歴]

[学 歴]

- 1990年3月 岩手大学農学部農芸化学科卒業
- 1992年3月 岩手大学大学院農学研究科修士課程修了
- 1992年10月 岩手大学大学院研究生
- 1995年3月 岩手大学大学院連合農学研究科博士課程退学

[学 位]

博士 (農学)

[職 歴]

- 1995年4月 青森大学工学部生物工学科助手
- 2004年4月 青森大学薬学部医療薬学科助手
- 2006年4月 青森大学薬学部薬学科講師
- 2013年4月 青森大学薬学部薬学科准教授

[受 賞]

特になし

[所属学会]

日本分子生物学会、日本生化学会、日本農芸化学会

[教育活動]

[担当科目]

生化学Ⅱ、衛生薬学Ⅰ、薬学基礎実習Ⅰ、生化学実習、微生物・衛生化学実習、薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、特別実習

[卒業研究指導]

- 2011年卒業研究： 6名
- 2012年卒業研究： 10名
- 2013年卒業研究： 13名
- 2014年卒業研究： 13名
- 2015年卒業研究： 12名

[ゼミ指導]

薬学部担任制で各学年2~3名を指導

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験対策の授業を行った。
2. CBT対策の授業を行った。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) グリチルレチン酸およびイソチオシアネート化合物ががん細胞に与える影響
- (2) 神経ペプチドの記憶機能に関与する分子機構
- (3) 細胞周期とがんに関わるタンパク質と遺伝子の解析

[著書、論文、総説]

1. Yamaguchi H, Akitaya T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K. Mouse 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2 for human application: homology modeling,

- structural analysis and ligand-receptor interaction. *Cancer Inform.* 10:287-95. (2011).
2. Yamaguchi H, Yu T, Noshita T, Kidachi Y, Kamiie K, Yoshida K, Akitaya T, Umetsu H, Ryoyama K. Ligand-receptor interaction between triterpenoids and the 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2 (11 β HSD2) enzyme predicts their toxic effects against tumorigenic *r/m* HM-SFME-1 cells. *J Biol Chem.* 286(42):36888-97. (2011).
 3. Yamaguchi H, Yu T, Kidachi Y, Akitaya T, Yoshida K, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K. Selective toxicity of glycyrrhetic acid against tumorigenic *r/m* HM-SFME-1 cells is potentially attributed to downregulation of glutathione. *Biochimie.* 93(7):1172-8. (2011).
 4. Yamaguchi H, Akitaya T, Yu T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K. Homology modeling and structural analysis of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2. *Eur J Med Chem.* 46(4):1325-30. (2011).
 5. Yamaguchi H, Akitaya T, Yu T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K. Molecular docking and structural analysis of cofactor-protein interaction between NAD⁺ and 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2. *J Mol Model.* 18(3):1037-48. (2012).
 6. Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H. Structural insight into the ligand-receptor interaction between glycyrrhetic acid (GA) and the high-mobility group protein B1 (HMGB1)-DNA complex. *Bioinformation.* 8(23):1147-53. (2012).
 7. Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H. Homology modeling and structural analysis of human P-glycoprotein. *Bioinformation.* 8(22):1066-74. (2012).
 8. Yamaguchi H, Akitaya T, Kidachi Y, Kamiie K, Umetsu H. Homology modeling and structural analysis of human γ -glutamylcysteine ligase catalytic subunit for antitumor drug development. *J Biophys Chem*, 3, 238-248. (2012).
 9. 上家勝芳 (分担執筆) : 医療・生命・薬学英語、ムイスリ出版、2013年3月
 10. Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Prediction of the possible inhibitory effect of 6-(methylsulfinyl)hexyl isothiocyanate (6MITC) and its analogs on P-glycoprotein (P-gp) by *in silico* analysis of their interaction energies. *Int J Comput Bioinfo In Silico Modeling.* 2 (4), 206-212. (2013).
 11. Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Utilization of 6-(methylsulfinyl)hexyl isothiocyanate for sensitization of tumor cells to antitumor agents in combination therapies. *Biochemical Pharmacology* 86, 458-468. (2013).
 12. Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Structural insight into the ligand-receptor interaction between 6-(methylsulfinyl)hexyl isothiocyanate and multidrug resistance-associated protein 1 nucleotide-binding domain 1. *Int J Comput Bioinfo In Silico Model.* 3(1), 310-314. (2014).
 13. Yamaguchi H †, Kamiie K †, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. († These authors contributed equally to this work.) Intracellular accumulation of structurally varied isothiocyanates correlates with inhibition of nitric oxide production in proinflammatory stimuli-activated tumorigenic macrophage-like cells. *Bioorg. Med. Chem.* 22, 440-446. (2014).
 14. Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Structural basis for the interaction of 6-(methylsulfinyl) hexyl isothiocyanate with inducible nitric oxide synthase. *Int J Comput Bioinfo In Silico Model.* 3(4), 426-432. (2014).
 15. Kamiie K, Noshita T, Kidachi Y and Yamaguchi H. Structural insight into the homology

modeled human N-acetyl-alpha-neuraminidase 3 (NEU3): Part2. *Int J Comput Bioinfo In Silico Model.* 4(6), 753-760. (2015).

[学会発表]

1. Antiproliferative effects of isothiocyanates and glycyrrhetic acid on mouse tumor cells are attributed to downregulation of glutathione. 第34日本分子生物学会年会(横浜)、2011年
2. 甘草成分の選択的抗がん細胞作用におけるグルタチオン抑制について. 日本薬学会フォーラム2012: 衛生薬学・環境トキシコロジー(名古屋)、2012年
3. イソチオシアネートとグリチルレチン酸のマウスがん細胞に与える影響. 第51回日本薬学会東北支部大会(青森)、2012年
4. 薬局実務実習を終えて 補色による調剤過誤防止策. 第51回日本薬学会東北支部大会(青森)、2012年
5. マウスがん細胞の遺伝子発現に対するグリチルレチン酸の影響. 第36日本分子生物学会年会(神戸)
6. 中枢神経系癌細胞の細胞周期タンパク質に対するグリチルレチン酸の影響. 2014年度農芸化学学会大会(東京)

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

特になし

[学外各種委員]

薬学教育評価機構評価実施員

[学内各種委員]

学長補佐室、組換えDNA実験安全委員会、医の倫理委員会、高校生科学研究コンテスト実施委員会、教務委員会、学習支援センター、学長補佐室、卒業試験委員会、CBT運営委員会、共通機器運営委員会、薬学部自己点検・評価委員会、薬学部同窓会事務局

氏名 木立 由美 (KIDACHI Yumi)

所属 薬学部薬学科

職名 准教授

生年月日 1966年8月25日

[履歴]

[学歴]

1989年3月 弘前大学理学部生物学科卒業

[学位]

学士(理学) 1989年3月 弘前大学

博士(薬学) 2010年8月 北海道薬科大学

[職歴]

1989年4月 株式会社 エス・アール・エル 臨床化学部

1994年4月 青森大学工学部生物工学科 技術員

2000年4月 青森大学工学部生物工学科 助手

2004年4月 青森大学薬学部医療薬学科 助手

2006年4月 青森大学薬学部薬学科 助手

2008年4月 青森大学薬学部薬学科 助教

2010年4月 青森大学薬学部薬学科 講師

2013年4月 青森大学薬学部薬学科 准教授

[所属学会]

日本癌学会、日本分子生物学会

[教育活動]

[担当科目]

機能形態学Ⅰ(人体の構造と機能)、機能形態学Ⅱ(生体機能の調節Ⅰ、1年生)機能形態学Ⅲ(2年生)、生化学実習、基礎薬学実習Ⅰ(1年)、実務実習事前実習、薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、特別実習

[卒業研究指導]

2012年卒業研究: 3名

2013年卒業研究: 13名

2014年卒業研究: 15名

2015年卒業研究: 12名

2016年卒業研究: 9名

[ゼミ指導]

1年~3年: 7名

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験合格支援のため、基礎薬学(生物系)の補講を行っている。
2. 薬学教養試験(CBT)合格支援のため、生物系科目の補講を行っている。
3. 成績不振の学生に対して、補講を行ない学生の学力向上に努めている。

4. 学生実習の各専門実習全般を取りまとめ、学生実習の充実に努めている。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 癌の微小な転移をコントロールする方法の開発
- (2) 潰瘍性大腸炎に対する治療薬の開発

[著書、論文、総説]

- 1, Yamaguchi H, Akitaya T, Yu T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K, Homology modeling and structural analysis of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2. *Eur J Med Chem*, 46, 1325-1330 (2011)
- 2, Yamaguchi H, Akitaya T, Yu T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K, Molecular docking and structural analysis of cofactor-protein interaction between NAD⁺ and 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2. *J Mol Model*, 18, 1037-1048 (2012)
- 3, Yamaguchi H, Yu T, Kidachi Y, Akitaya T, Yoshida K, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K, Selective toxicity of glycyrrhetic acid against tumorigenic r/m HM-SFME-1 cells is potentially attributed to downregulation of glutathione. *Biochimie*, 93, 1172-1178 (2011)
- 4, Yamaguchi H, Yu T, Noshita T, Kidachi Y, Kamiie K, Yoshida K, Akitaya T, Umetsu H, Ryoyama K., Ligand-receptor interaction between triterpenoids and 11 β HSD2 predicts their toxic effects against tumorigenic r/m HM-SFME-1 cells. *J Biol Chem.*, 286, 36888-36897 (2011)
- 5, Yamaguchi H, Akitaya T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K., Mouse 11 β -Hydroxysteroid Dehydrogenase Type 2 for Human Application: Homology Modeling, Structural Analysis and Ligand-Receptor Interaction. *Cancer Informatics*, 10, 287-295 (2011)
- 6, Yamazaki A, Kidachi Y, Minokawa T., "Micromere" formation and expression of endomesoderm regulatory genes during embryogenesis of the primitive echinoid *Prionocidaris baculosa*. *Dev Growth Differ.*, 54, 566-578 (2012)
- 7, Yamaguchi H, Akitaya T, Kidachi Y, Kamiie K, Umetsu H, Homology modeling and structural analysis of human γ -glutamylcysteine ligase catalytic subunit for antitumor drug development. *J Biophys Chem.*, 3, 238-248(2012)
- 8, Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Homology modeling and structural analysis of human P-glycoprotein. *Bioinformatics*, 8, 1066-1074(2012)
- 9, Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Structural insight into the ligand-receptor interaction between glycyrrhetic acid (GA) and the high-mobility group protein B1 (HMGB1)-DNA complex. *Bioinformatics*, 8, 1147-1153 (2012)
- 10, Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K., Utilization of 6-(methylsulfinyl)hexyl isothiocyanate for sensitization of tumor cells to antitumor agents in combination therapies. *Biochem Pharmacol.* 15;458-68.(2013)
- 11 Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Prediction of the possible inhibitory effect of 6-(methylsulfinyl)hexyl isothiocyanate (6MITC) and its analogs on P-glycoprotein (P-gp) by in silico analysis of their interaction energies, *Int J Comput Bioinfo In Silico Model.*, 2: 206-212(2013)
- 12 Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Intracellular accumulation of structurally varied isothiocyanates correlates with inhibition

- of nitric oxide production in proinflammatory stimuli-activated tumorigenic macrophage-like cells. *Bioorg Med Chem.*, 22: 440-446 (2014)
- 13 Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Structural insight into the ligand-receptor interaction between 6-(methylsulfinyl)hexyl isothiocyanate and multidrug resistance-associated protein 1 nucleotide-binding domain 1, *Int J Comput Bioinfo In Silico Model.*, 3, 310-314(2014)
 - 14 Yamazaki A, Kidachi Y, Yamaguchi M, Minokawa T. Larval mesenchyme cell specification in the primitive echinoid occurs independently of the double-negative gate., *Development.*, 141, 2669-79 (2014)
 - 15 Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K, Structural basis for the interaction of 6-(methylsulfinyl) hexyl isothiocyanate with inducible nitric oxide synthase, *Int J Comput Bioinfo In Silico Model.*, 3, 426-432 (2014)
 - 16 Kamiie K, Noshita T, Kidachi Y, Yamaguchi H, Structural insight into the homology modeled human N-acetyl-alpha-neuraminidase 3 (NEU3): Part2, *Int J Comput Bioinfo In Silico Model.*, 4, 753-760 (2015)

[学会発表]

- 1, 山口秀明、于涛、木立由美、野下俊朗、上家勝芳、秋田谷龍男、梅津博紀、獵山一雄、グリチルレチン酸の選択的抗癌作用におけるグルタチオン産生能に関わる研究、2011年3月、日本農芸化学会2011年度大会
- 2, Yamaguchi H, Yu T, Noshita T, Kidachi Y, Kamiie K, Yoshida K, Akitaya T, Umetsu H, Ryoyama K, Selective toxicity of glycyrrhetic acid against the CNS-related tumorigenic cells, 2011年8月、Drug Discovery & Diagnostic Development Week 2011 (New Frontiers in Cancer) IBC Life Science
- 3, 山寄敦子、木立由美、美濃川拓哉、ウニ類の「祖先型」幼生骨片形成機構、2011年9月、日本動物学会第82回大会
- 4, 上家勝芳、木立由美、野下俊朗、山口秀明、梅津博紀、獵山一雄、Antiproliferative effects of isothiocyanates and glycyrrhetic acid on mouse tumor cells are attributed to downregulation of glutathione, 2011年12月、第34回日本分子生物学会年会
- 5, 西川耀、野下俊朗、大内秀一、木立由美、齊藤安貴子、*Aptenia cordifolia* から単離されたネオリグナン、*Apteniol* 類の合成、2012年9月、農芸化学会中四国支部大会第34回講演会
- 6, 山寄敦子、木立由美、美濃川拓哉 原始的ウニ・キダリスの間充織特異化メカニズム、2012年9月、日本動物学会 第83回大会
- 7, 山口秀明、木立由美、上家勝芳、野下俊朗、梅津博紀、獵山一雄、甘草成分の選択的抗がん細胞作用におけるグルタチオン抑制について、2012年10月、日本薬学会フォーラム2012：衛生薬学・環境トキシコロジー
- 8, 木立由美、獵山一雄、"6-(Methylsulfinyl)hexyl Isothiocyanate (6-MITC)の潰瘍性大腸炎に対する治療効果、2012年10月、第51回日本薬学会東北支部大会
- 9, 上家勝芳、木立由美、野下俊朗、獵山一雄、イソチオシアネートとグリチルレチン酸のマウスがん細胞に及ぼす影響、2012年10月、第51回日本薬学会東北支部大会
- 10, 上家勝芳、木立由美、幕内志野、山口秀明、梅津博紀、獵山一雄、マウスがん細胞の遺伝子発現に対するグリチルレチン酸の影響、2013年12月、第36回日本分子

生物学会年会

- 11, 伊藤大輔、川瀬裕太、清水涼平、田中大樹、上家勝芳、木立由美、野下俊朗、梅津博紀、獺山一雄、山口秀明、中枢神経系癌細胞の細胞周期タンパク質に対するグリチルレチン酸の影響、2014年3月、2014年度農芸化学会大会

[研究費の取得状況]

- 1, マウス腹腔マクロファージに対する食品成分の炎症抑制効果 財団法人青森学術文化振興財団（助成金）、900,000円、2011年4月～2012年3月

[その他の活動]

[学内各種委員]

学生実習委員会、卒業研究推進委員会、OSCE 運営委員会、動物センター運営委員会、予算委員会、入試委員会（編入試験）、教務委員会、建物委員会、薬学教育評価機構対策委員会、日本高等教育評価機構対策委員会、教学改革タスクフォース学、生募集タスクフォース（全）、衛生委員会（全）

[学外各種委員]

なし

氏名 佐藤 昌泰 (SATO Masayasu)

所属 薬学部薬学科

職名 講師

生年月日 1969 年 8 月 2 日

[履 歴]

[学 歴]

1994 年 3 月 北海道大学水産学部水産化学科卒業

2002 年 3 月 北海道大学大学院地球環境科学研究科大気海洋圏環境科学専攻修了

[学 位]

博士 (地球環境科学)

[職 歴]

2004 年 4 月 青森大学薬学部助手

2007 年 4 月 青森大学薬学部助教

2010 年 4 月 青森大学薬学部講師 (現在に至る)

[所属学会]

日本地球化学会、日本環境化学会

[教育活動]

[担当科目]

情報科学、情報科学演習 I、情報科学演習 II、環境科学

[教育指導に関する特記事項]

薬剤師国家試験支援のため、補講を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 大気中微粒子の濃度変動

(2) 古環境におけるプロキシの開発

[著書、論文、総説]

1. 佐藤昌泰、佐藤英助：札幌市内における河川水中水銀濃度の測定、雪国環境研究第 13 号、2007

2. 閻華、佐藤昌泰、佐藤英助：青森市内における浮遊性粒子状物質の分布及びその北京との比較 雪国環境研究第 14 号、2008

3. 閻華、佐藤昌泰、佐藤英助：青森市内及び北京市における浮遊粒子状物質の分布の変化 雪国環境研究第 15 号、2009

4. 佐藤昌泰、佐藤英助：弘前市と札幌市における浮遊粒子状物質の分布 雪国環境研究第 16 号、2010

[学会発表]

Estrogen levels of river water in Tokyo, Aomori and Sapporo, Japan

PACIFICHEM 2010、2010 年 12 月、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル

[その他の活動]

[学内各種委員]

国家試験対策委員会

薬学共用試験委員会

共通機器運営委員会

氏名 津田 岳夫 (TSUDA Takeo)

所属 薬学部薬学科

職種 准教授

生年月日 1970年7月29日

[履 歴]

[学 歴]

1993年3月 北海道大学理学部化学科卒業

1995年3月 北海道大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了

1998年3月 北海道大学大学院理学研究科化学専攻博士後期課程修了

[学 位]

1998年3月 博士(理学)(北海道大学)

[職 歴]

1998年4月 大阪大学医学部博士研究員

2000年9月 Canada国 Toronto 大学 Banting and Best 研究所博士研究員

2002年3月 東京大学分子細胞生物学研究所助手

2007年4月 東京大学分子細胞生物学研究所助教

2009年4月 学習院大学理学部生命科学科助教

2016年4月 青森大学薬学部薬学科准教授(現在に至る)

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本生化学会、日本蛋白質科学会、日本生物工学会

[教育活動]

[担当科目]

物理化学Ⅲ、機器分析学、創薬学概論、分析化学・放射化学実習、薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、特別実習

[卒業研究指導]

2016年度 3名

[ゼミ指導]

2016年度 1年生 3名、4年生 3名、6年生 3名

[教育指導に関する特記事項]

1. 学生に「伝わる」ことを意識して、教育指導を行っている。
2. 薬剤師国家試験支援のため、補講を行っている。
3. 共用試験(CBT、OSCE)対策のため、補講を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 機能改変したL-アミノ酸リガーゼを用いた機能性ペプチドの生合成
2. S型糖転移酵素、チオエーテル環化酵素のX線結晶構造解析

[著書、論文、総説]

原著論文(査読有)

1. Yamazaki A., Kaya S., **Tsuda T.**, Araki Y., Hayashi Y., and Taniguchi K. "An extra phosphorylation of Na⁺,K⁺-ATPase by paranitrophenylphosphate (pNPP): evidence for the oligomeric nature of the enzyme." **J Biochem (Tokyo)**. 1994 Dec 116 (6): 1360-9
2. Kaya S., **Tsuda T.**, Hagiwara K., Fukui T., and Taniguchi K. "Pyridoxal 5'-phosphate probes at Lys-480 can sense the binding of ATP and the formation of phosphoenzymes in

- Na⁺,K⁺-ATPase." *J Biol. Chem.* 1994 Mar 11; 269 (10):7419-22
3. **Tsuda T.**, Kaya S., Yokoyama T., and Taniguchi K. "Are pyridoxal and fluorescein probes in lysine residues of α -chain in Na⁺,K⁺-ATPase sensing ATP binding?" *Ann N Y Acad Sci.* 1997 Nov 3; 834:186-93
 4. **Tsuda T.**, Kaya S., Funatsu H., Hayashi Y., and Taniguchi K. "Fluorescein 5'-isothiocyanate-modified Na⁺,K⁺-ATPase, at Lys-501 of the α -chain, accepts ATP independent of pyridoxal 5'-diphospho-5'-adenosine modification at Lys-480." *J Biochem. (Tokyo).* 1998 Jan; 123 (1):169-74
 5. **Tsuda T.**, Kaya S., Yokoyama T., Hayashi Y., and Taniguchi K. "Half-site modification of Lys-480 of the Na⁺,K⁺-ATPase α -chain with pyridoxal 5'-diphospho-5'-adenosine reduces ATP-dependent phosphorylation stoichiometry from half to a quarter." *J Biol. Chem.* 1998 Sep 18; 273 (38) :24334-8
 6. **Tsuda T.**, Kaya S., Yokoyama T., Hayashi Y., and Taniguchi K. "ATP and acetyl phosphate induces molecular events near the ATP binding site and the membrane domain of Na⁺,K⁺-ATPase. The tetrameric nature of the enzyme." *J Biol. Chem.* 1998 Sep 18; 273 (38): 24339-45
 7. Ikeda Y., Koyota S., Ihara H., Yamaguchi Y., Korekane H., **Tsuda T.**, and Taniguchi N. "Kinetic basis for the donor nucleotide-sugar specificity of β 1, 4-N-acetylglucosaminyltransferase III." *J Biochem (Tokyo).* 2000 Oct; 128 (4):609-19
 8. **Tsuda T.**, Ikeda Y., and Taniguchi N. "The Asn-420-linked sugar chain in human epidermal growth factor receptor suppresses ligand-independent spontaneous oligomerization. Possible role of a specific sugar chain in controllable receptor activation." *J Biol. Chem.* 2000 Jul 21; 275 (29):21988-94
 9. Sasai K., Ikeda Y., **Tsuda T.**, Ihara H., Korekane H., Shiota K., and Taniguchi N. "The critical role of the stem region as a functional domain responsible for the oligomerization and Golgi localization of N-acetylglucosaminyltransferase V. The involvement of a domain homophilic interaction." *J Biol. Chem.* 2001 Jan 5; 276 (1): 759-65
 10. Kato M., Hayashi R., **Tsuda T.**, and Taniguchi K. "High pressure-induced changes of biological membrane. Study on the membrane-bound Na⁺/K⁺-ATPase as a model system." *Eur J Biochem.* 2002 Jan 269 (1): 110-8
 11. Sasai K., Ikeda Y., Fujii T., **Tsuda T.**, and Taniguchi N. "UDP-GlcNAc concentration is an important factor in the biosynthesis of β 1,6-branched oligosaccharides: regulation based on the kinetic properties of N-acetylglucosaminyltransferase V." *Glycobiology.* 2002 Feb 12 (2): 119-127
 12. Sasai K., Ikeda Y., Eguchi H., **Tsuda T.**, Honke K., and Taniguchi N. "The action of N-acetylglucosaminyltransferase-V is prevented by the bisecting GlcNAc residue at the catalytic step." *FEBS Lett.* 2002 Jul 3; 522 (1-3): 151-155
 13. Toyoshima C., Asahi M., Sugita Y., Khanna R., **Tsuda T.**, and MacLennan D.H. "Modeling of the inhibitory interaction of phospholamban with the Ca²⁺ATPase." *Proc. Nat. Acad. Sci. USA* 2003 Jan 21; 100: 467-472
 14. Toyoshima C., Nomura H., and **Tsuda T.** "Lumenal gating mechanism revealed in calcium pump crystal structures with phosphate analogues" *Nature.* 2004 Nov 4; 32 (7015): 361-368
 15. Hatori Y., Majima E., **Tsuda T.**, and Toyoshima C. "Domain organization and movements in heavy metal ion pumps: papain digestion of CopA, a Cu⁺-transporting ATPase." *J Biol.*

Chem. 2007 Aug 31;282 (35):25213-25221

- 1 6. Toyoshima C., Norimatsu Y., Iwasawa S., **Tsuda T.**, and Ogawa H. "How processing of aspartylphosphate is coupled to lumenal gating of the ion pathway in the calcium pump." **Proc. Nat. Acad. Sci. USA.** 2007 Dec 11;104 (50):19831-19836
- 1 7. Morita T., Hussain D., Asahi M., **Tsuda T.**, Kurzydowski K., Toyoshima C., and MacLennan D.H. "Interaction sites among phospholamban, sarcolipin, and the sarco(endo)plasmic reticulum Ca(2+)-ATPase." **Biochem Biophys Res Commun.** 2008 Apr 25;369 (1):188-194.
- 1 8. **Tsuda T.**, and Toyoshima C. "Nucleotide recognition by CopA, a Cu⁺-transporting P-type ATPase." **EMBO J.** 2009 Jun 17: 28(12): 1782-1791
- 1 9. **Tsuda T.**, Suzuki T., and Kojima S. "Crystallization and preliminary X-ray diffraction analysis of Bacillus subtilis YwfE, an L-amino-acid ligase." **Acta Cryst.** 2012: F68: 203-206
- 2 0. **Tsuda T.**, Asami M., Koguchi Y., and Kojima S. "Single mutation alters substrate specificity of L-amino-acid ligase." **Biochemistry** 2014 Apr 17: 53: 2650-2660

原著論文 (査読無)

1. Kaya S., **Tsuda T.**, Hagiwara K., Shimada A., Taniguchi K., and Fukui T., "Pyridoxal 5'-phosphate probe at Lys-480 can monitor conformational events induced by Acetyl phosphate in Na⁺/K⁺-ATPase." **The sodium pump** 1994 641-644
2. Taniguchi K., Kaya S., Abe T., Yokoyama T., and **Tsuda T.** "Tetraprotomeric hypothesis of Na/K-ATPase." **Elsevier Science B. V.: Na/K-ATPase and Related ATPases** 2000 365-72
3. Kato M., Hayashi R., **Tsuda T.**, and Taniguchi K. "High pressure-induced changes in lipid bilayer-protein interface of transmembrane Na⁺,K⁺-ATPase from pig kidney." **Elsevier Science B. V.: Na/K-ATPase and Related ATPases** 2000 237-40

総説 (英語)

1. Takahashi M., **Tsuda T.**, Ikeda Y., Honke K. and Taniguchi N. "Role of N-glycans in growth factor signaling." **Glycoconjugate.** 2004 Apr 20 (3): 207-212

著書 (日本語)

1. 池田義孝, **津田岳夫**, 谷口直之. 「N-結合型糖鎖によるEGFレセプターシグナルの制御」 **細胞工学** (2001) Vol. 20, No. 2, 183-186

[学会発表]

1. 萩原かおる、○嘉屋俊二、**津田岳夫**、島田明、今川敏明、石本聿利、荒木義雄、谷口和弥 「ピリドキサルリン酸及びその誘導体による Na⁺,K⁺-ATPase の修飾」 第65回日本生化学会年会 (九州大学) 1992年10月
2. ○**津田岳夫**、嘉屋俊二、島田明、今川敏明、石本聿利、谷口和弥 「ピリドキサルリン酸 (PLP) で修飾した Na⁺,K⁺-ATPase を用いた構造変化の解析」 第66回日本生化学会年会 (東京) 1993年10月
3. ○**津田岳夫**、嘉屋俊二、吉田和世、今川敏明、谷口和弥 「Na⁺,K⁺-ATPase のα鎖 Lys480 にピリドキサルリン酸 (PLP) を導入した酵素の性質」 第67回日本生化学会年会 (関西大学) 1994年9月
4. ○**津田岳夫**、嘉屋俊二、横山毅、今川敏明、谷口和弥 「Pyridoxal プローブを導入した Na⁺,K⁺-ATPase のリン酸化と構造変化」 第68回日本生化学会年会 (東北大学) 1995年9月

5. ○高橋正寿、横山毅、**津田岳夫**、嘉屋俊二、今川敏明、谷口和弥、林雄太郎「異なる蛍光プローブで修飾した Na^+, K^+ -ATPase の可溶化後に観察される蛍光エネルギー移動」第69回日本生化学会年会（ロイトン札幌・札幌市）1996年8月
6. ○**津田岳夫**、嘉屋俊二、横山毅、今川敏明、谷口和弥「 Na^+, K^+ -ATPase の ATP で保護される Lys 残基への2種の蛍光プローブの導入」第69回日本生化学会年会（ロイトン札幌・札幌市）1996年8月
7. ○Yokoyama T., Shouya T., **Tsuda T.**, Kaya S., and Taniguchi K. 「ATP induced conformational changes of Na^+, K^+ -ATPase detected by a voltage sensitive dye and a fluorescence probe at C-964 of Na^+, K^+ -ATPase」第17回国際生化学会年会（国際会議場・サンフランシスコ）1997年8月
8. ○**Tsuda T.**, Kaya S., Yokoyama T., Hayashi Y., and Taniguchi K. 「Fluorescence probes at Lys-480 and Lys-501 of Na^+, K^+ -ATPase and conformational events in each subunit.」第17回国際生化学会年会（国際会議場・サンフランシスコ）1997年8月
9. ○横山毅、庄屋朋美、**津田岳夫**、嘉屋俊二、谷口和弥「電位感受性蛍光プローブとSH指向性蛍光プローブを用いた Na^+, K^+ -ATPase の構造変化の解析」第70回日本生化学会年会（金沢大学）1997年9月
10. ○**津田岳夫**、嘉屋俊二、船津宏志、林雄太郎、谷口和弥「 Na^+, K^+ -ATPase の ATP 結合部位近傍の構造変化の解析」第70回日本生化学会年会（金沢大学）1997年9月
11. **津田岳夫**、横山毅、嘉屋俊二、○谷口和弥「膜結合型 Na^+, K^+ -ATPase は $\alpha\beta$ -protomer からなる4量体、 $(\alpha\beta)_4$ である」第71回日本生化学会年会（名古屋国際会議場）1998年10月
12. ○井原秀之、池田義孝、**津田岳夫**、高橋素子、谷口直之「変異型 G_nT-III の dominant negative 効果」第72回日本生化学会年会（パシフィコ横浜）1999年10月
13. ○**津田岳夫**、池田義孝、山口幸洋、盛音、井原秀之、高橋素子、谷口直之「EGF レセプターに対する糖鎖付加の機能、構造への影響」第72回日本生化学会年会（パシフィコ横浜）1999年10月
14. ○**津田岳夫**、池田義孝、谷口直之「EGF レセプターの Asn420 に付加した糖鎖の役割」日本生化学会関西支部会（大阪市立大学）2000年6月
15. ○**津田岳夫**、豊島近、Michio Asahi, David H MacLennan 「筋小胞体 Ca^{2+} -ATPase M2 領域のフォスフォランバン結合への役割」第75回日本生化学会年会（京都国際会議場）2002年10月
16. ○**津田岳夫**、豊島近「銅イオンポンプのヌクレオチド結合様式」第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会 合同大会（神戸ポートアイランド）2008年12月
17. ○**津田岳夫**、柏崎淳子、小島修一「銅イオンポンプのドメイン間相互作用」第82回日本生化学会年会（神戸ポートアイランド）2009年10月
18. ○**津田岳夫**、鈴木智美、小島修一「L-アミノ酸連結酵素の結晶構造解析」第11回日本蛋白質科学会年会（ホテル阪急エキスポパーク・吹田市）2011年6月
19. ○**津田岳夫**、小森康晴、大段沙織、小口孔明、佐藤愛、小島修一「抗生物質バチライシン生合成酵素の結晶構造解析」第84回日本生化学会年会（京都国際会議場）2011年9月
20. ○**津田岳夫**、浅見真奈、小口孔明、小島修一「L-アミノ酸連結酵素 YwfE の基質認識様式」第36回日本分子生物学会年会・第86回日本生化学会大会 合同大会（福岡国際会議場）2012年12月
21. ○**津田岳夫**、浅見真奈、小口孔明、小島修一「L-アミノ酸連結酵素 YwfE のアミノ酸変異に

よる基質選択性の改変」 第66回日本生物工学会年次大会（札幌コンベンションセンター）2014年9月

22. ○津田岳夫、浅見真奈、小口孔明、小島修一「変異導入によるLアミノ酸リガーゼの基質特異性の改変」 第87回日本生化学会年会（京都国際会議場） 2014年10月

23. ○林佳恵子、津田岳夫、小島修一「枯草菌由来ホスホエノールピルビン酸ムターゼの結晶構造」第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会（神戸ポートアイランド）2015年12月

24. ○津田岳夫、浅見真奈、小口孔明、小島修一「変異導入によるLアミノ酸リガーゼの基質特異性の改変」第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会（神戸ポートアイランド）2015年12月

[その他の活動]

学習院大学理学部生命科学科 非常勤講師

[公開講座、講演、セミナー]

特になし

[学内各種委員]

共通機器運営委員会、学生実習委員会、卒業試験委員会、入試問題作成担当

氏名 福井 雅之 (FUKUI, Masayuki)

所属 薬学部薬学科

職種 准教授

生年月日 1971年9月19日

[履 歴]

[学 歴]

- 1998年3月 東京理科大学応用生物科学化卒業
- 2000年3月 東京理科大学大学院応用生物科学専攻博士前期課程修了
- 2003年3月 金沢大学大学院自然科学研究科生命科学専攻博士後期課程修了

[学 位]

- 2003年3月 理学博士 (金沢大学)

[職 歴]

- 2003年4月 金沢大学がん研究所分子標的薬剤開発センター研究員
- 2003年9月 国立成育医療センター研究所研究員
- 2006年8月 サウスカロライナ州立大学 (米国) 研究員
- 2007年1月 カンザス州立大学メディカルセンター (米国) 研究員
- 2010年4月 カンザス州立大学 Research Assistant Professor
- 2011年7月 産業医科大学医学部助教
- 2012年7月 琉球大学熱帯生物圏研究センター研究員
- 2016年4月 青森大学薬学部准教授

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本免疫学会、日本細菌学会、日本生体防御学会

[教育活動]

[担当科目]

免疫学、化学療法学、微生物学、薬学基礎実習Ⅰ、微生物・衛生化学実習、薬学総合演習Ⅰ、
薬学総合演習Ⅱ

[卒業研究指導]

2016年4月より着任し開始。4年生3人、6年生4人

[ゼミ指導]

2016年 担任制により1年生3人、4年生3人、6年生4人

[教育指導に関する特記事項]

特になし

[研究活動]

[研究テーマ]

細胞内寄生性細菌に対する生体防御機構の解析
がん細胞増殖抑制機構の解析

[著書、論文、総説]

1. Tachiiri A, Imamura R, Wang Y, **Fukui M**, Umemura M and Suda T. Genomic structure and inducible expression of the IL-22 receptor α chain in mice. *Genes and Immunity* 4 : 153-159, 2003.
2. **Fukui M**, Imamura R, Umemura M, Kawabe T. and Suda T Pathogen-Associated Molecular Patterns Sensitize Macrophages to Fas Ligand-Induced Apoptosis and IL-1 β Release. *Journal of Immunology* 171:1868-1874, 2003.
3. Umemura M, Kawabe T, Shudo K, Kidoya H, **Fukui M**, Asano M, Iwakura Y, Matsuzaki G, Imamura R and Suda T. Involvement of IL-17 in Fas ligand-induced inflammation. *International Immunology* 16:1099-1108, 2004.
4. Imamura R, Konaka K, Matsumoto N, Hasegawa M, **Fukui M**, Mukaida N, Kinoshita T, and Suda T. Fas Ligand Induces Cell-autonomous NF- κ B Activation and Interleukin-8 Production by a Mechanism Distinct from That of Tumor Necrosis Factor- α . *Journal of Biological Chemistry* 279(45):46415-46423, 2004.
5. **Fukui M** and Zhu BT. Mechanisms of 2-methoxyestradiol-induced apoptosis and growth arrest in human breast cancer cells. *Molecular Carcinogenesis* 2009; 48(1): 66-78. Epub; June 2, 2008.
6. **Fukui M**, Nagahara Y, Nishio Y, Honjo T and Shinomiya T. Rokitamycin induces a mitochondrial defect and caspase-dependent apoptosis in human T-cell leukemia jurkat cells. *Journal of Pharmacological Sciences* 110: 69-77, 2009.
7. Zhou R*, **Fukui M***, Choi HJ and Zhu BT. Induction of a reversible, non-cytotoxic S phase delay by resveratrol: Implications for a mechanism of lifespan prolongation and cancer protection. *British Journal of Pharmacology* 158(2): 462-474. 2009. *These authors contributed equally to this work.
8. **Fukui M**, Song J, Choi J, Choi HJ and Zhu BT. Mechanism of Glutamate-induced neurotoxicity in HT22 mouse hippocampal cells. *European Journal of Pharmacology* 617(1-3): 1-11. Epub 2009.
9. **Fukui M** and Zhu BT. Mitochondrial Superoxide Dismutase SOD2, but not Cytosolic SOD1, Plays a Critical Role in Protection against Glutamate-Induced Oxidative Stress and Cell Death in HT22 Neuronal Cells. *Free Radical Biology and Medicine* 48(6): 821-830, 2010.
10. **Fukui M**, Yamabe N and Zhu BT. Resveratrol Attenuates the Anticancer Efficacy of Paclitaxel in Human Breast Cancer Cells In Vitro and In Vivo. *European Journal of Cancer* 46(10)1882-1891, 2010.
11. Kang KS, Wang P, Yamabe N, **Fukui M**, Jay T, and Zhu BT. Docosahexaenoic Acid Induces Apoptosis in MCF-7 Cells In Vitro and In Vivo via Reactive Oxygen Species Formation and Caspase 8 Activation. *PLoS ONE* 5(4):e10296, 2010.
12. **Fukui M**, Yamabe N, Kang KS and Zhu BT. Resveratrol can stimulate the Growth of MDA-MB-435s Human Cancer Cells in vitro and in vivo. *Molecular Carcinogenesis* 49(8):750-759, 2010.
13. **Fukui M**, Choi HJ and Zhu BT. Mechanism for the protective effect of resveratrol against oxidative stress-induced neuronal death. *Free Radical Biology and Medicine* 49:800-813, 2010.
14. Kang KS, Wen Y, Yamabe N, **Fukui M**, Bishop SC and Zhu BT. Dual beneficial effects of (-)-epigallocatechin-3-gallate on levodopa methylation and hippocampal neurodegeneration: In vitro and in vivo studies. *PLoS ONE* 5(8):e11951, 2010.

15. Choi HJ, Kang KS, **Fukui M**, and Zhu BT. Critical role of the JNK/p53/GADD45- apoptotic cascade in mediating the oxidative cytotoxicity in hippocampal neurons. *British Journal of Pharmacology* 162:175-192, 2011.
16. Choi HJ, **Fukui M** and Zhu BT. Role of cyclin B1/Cdc2 up-regulation in the development of mitotic prometaphase arrest in human breast cancer cells treated with nocodazole, a prototypical microtubule inhibitor. *PLoS One* 6(8):e24312, 2011.
17. Zhou R, Lai Y, Yamabe N, **Fukui M** and Zhu BT. Estriol has distinctly different effects from 17 β -estradiol in modulating mouse splenocyte function under inflammatory conditions. *Journal of Immunotoxicology* 8(4):346-58, 2011.
18. **Fukui M**, Choi HJ and Zhu BT. Rapid generation of mitochondrial superoxide induces mitochondrion-dependent but caspase-independent cell death in hippocampal neuronal cells that morphologically resembles necroptosis. *Toxicology and Applied Pharmacology* 262(2):156-166, 2012.
19. Fu X, Wang P, **Fukui M**, Long C, Yin L, Choi HJ and Zhu BT. PDIP is a major intracellular estrogen-storage protein that modulates the tissue levels of estrogen in the pancreas. *Biochemical Journal* 447(1):115-123, 2012.
20. **Fukui M**, Kang KS, Okada K and Zhu BT. EPA, an Omega-3 fatty acid, induces apoptosis in human pancreatic cancer cells: Role of ROS accumulation, Caspase-8 activation, and autophagy induction. *Journal of Cellular Biochemistry* 114(1):192-203, 2013.
21. Kang KS, Yamabe N, Wen Y, **Fukui M** and Zhu BT. Beneficial effects of Natural phenolics on levodopa methylation and oxidative neurodegeneration. *Brain Research* 1497:1-14. 2013.
22. **Fukui M**, Yamabe N, Choi HJ, Polireddy K, Chen Q and Zhu BT. Role of Bcl-2 and Beclin-1 in Ascorbate-Induced Autophagy in Human Pancreatic Cancer. *Planta Medica* 81(10):838-46, 2015.
23. **Fukui M**, Shinjo K, Umemura M, Shigeno S, Harakuni T, Arakawa T and Matsuzaki G. Enhanced Effect of BCG Vaccine against Pulmonary Mycobacterium tuberculosis Infection in Mice with Lung Th17 Response to Mycobacterial Heparin-binding Hemagglutinin Adhesin Antigen. *Microbiology and Immunology* 59: 735-743, 2015.

[学会発表]

1. **Fukui M**, Fukui C, Nakae S, Matsuzaki G, Umemura M. Role of IL-33 on innate immunity in pulmonary mycobacterial infection. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, Sapporo Convention Center (Sapporo), 2015年11月18-20日
2. **福井雅之**、福井知穂、中江進、松崎吾朗、梅村正幸 マイコバクテリア肺感染早期におけるIL-33の防御増強効果 第26回日本生体防御学会学術総会 台東区生涯学習センター ミレニアムホール (台東区) 2015年7月10-12日
3. 梅村正幸、**福井雅之**、當山清悟、山崎雅俊、福井知穂、照屋尚子、田村敏生、中江進、岩倉洋一郎、松崎吾朗 マイコバクテリア感染におけるIL-17F産生細胞の同定 第88回日本細菌学会総会、長良川国際会議場 (岐阜市) 2015年3月26-28日
4. 山崎雅俊、梅村正幸、**福井雅之**、松崎吾朗 マイコバクテリア感染肺へのCD4+T細胞の動員に関するケモカイン/ケモカインレセプターの同定 第88回日本細菌学会総会、長良川国際会議場 (岐阜市) 2015年3月26-28日
5. UMEMURA Masayuki, **FUKUI Masayuki**, YAMASAKI Masatoshi, FUKUI Chiho, NAKAE Susumu, TAMURA Toshiki, MATSUZAKI Goro. Involvement of IL-33 in the protective immunity against lung mycobacterial infection. 第43回日本免疫学会総会、京都国際会議場 (京都市) 2014年12月10-12日
6. **福井雅之**、梅村正幸、山崎雅俊、福井知穂、照屋尚子、中江進、松崎吾朗 マイコバクテリア感染早期におけるインターロイキン(IL)-33の防御効果 第67回日本細菌学会九州支部総会、城山観光ホテル (鹿児島市) 2014年9月5-6日

7. 梅村正幸、**福井雅之**、當山清吾、山崎雅俊、福井知穂、照屋尚子、中江進、岩倉洋一郎、松崎吾朗 マイコバクテリア感染における IL-17 サイトカインファミリーの防御能 第 67 回日本細菌学会九州支部総会、城山観光ホテル (鹿児島市) 2014 年 9 月 5-6 日
8. **福井雅之**、梅村正幸、松崎吾朗 新規抗肺結核ワクチン戦略による早期防御免疫応答の増強 第 25 回日本生体防御学会学術総会、東北大学片平さくらホール 2014 年 7 月 9-11 日
9. 梅村正幸、**福井雅之**、福井知穂、中江進、松崎吾朗 IL-33 のマイコバクテリア感染防御免疫に対する増強効果 第 25 回日本生体防御学会学術総会、東北大学片平さくらホール 2014 年 7 月 9-11 日
10. **Masayuki Fukui**, Masayuki Umemura, Takeshi Miyata, Tetsuya Harakuni, Takeshi Arakawa, Goro Matsuzaki. Combined vaccination of subcutaneous BCG and intranasal HBHA with cholera toxin enhances early protective immunity against pulmonary M. tuberculosis infection. IMMUNOLOGY 2014, American Association of Immunologists Annual Meeting, Pittsburgh, Pennsylvania, USA. 2014 年 5 月 2-6 日
11. Masayuki Umemura, Seigo Touyama, **Masayuki Fukui**, Chiho Fukui, Susumu Nakae, Yoichiro Iwakura, Goro Matsuzaki. Role of IL-17 in chronic pulmonary mycobacterial infection. IMMUNOLOGY 2014, American Association of Immunologists Annual Meeting, Pittsburgh, Pennsylvania, USA. 2014 年 5 月 2-6 日
12. **Masayuki Fukui**, Masayuki Umemura, Takeshi Miyata, Tetsuya Harakuni, Takeshi Arakawa, Goro Matsuzaki. Induction of early protective immunity against pulmonary Mycobacterium tuberculosis infection in mice by combination of BCG priming vaccine and boosting mucosal vaccine with a recombinant mycobacterial antigen. Annual meeting of The Japanese Society for Immunology, 2013. 幕張メッセ (千葉市) 2013 年 12 月 11-13 日
13. 梅村正幸、當山清吾、**福井雅之**、福井知穂、中江進、岩倉洋一郎、松崎吾朗 マイコバクテリア感染肺における IL-17F 産生細胞の同定とその局在性 くまもと森都心プラザ プラザホール (熊本市) 2013 年 7 月 10-12 日
14. **Masayuki Fukui**, Masayuki Umemura, Goro Matsuzaki. Eicosapentaenoic acid induces apoptosis in pancreatic cancer cells: Role of ROS accumulation, caspase 8 activation, and autophagy induction. IMMUNOLOGY 2013, American Association of Immunologists Annual Meeting, Honolulu, Hawaii, USA. 2013 年 5 月 3-7 日
15. **Masayuki Fukui**, Ji-Hoon Song, Jin-Young Choi, Hye Joung Choi, Bao Ting Zhu. Mechanisms of Glutamate-Induced Necrosis and Apoptosis in Cultured HT22 Cells. American Association for Cancer Research 100th Annual Meeting, Colorado Convention Center, Denver, USA. 2009 年
16. Ru Zhou, **Masayuki Fukui**, Hye Joung Choi, Bao Ting Zhu. Induction of a Reversible, Non-cytotoxic S Phase Delay by Low Concentrations of Resveratrol: Implications for a Possible Mechanism for Lifespan Prolongation and Cancer Prevention. American Association for Cancer Research 100th Annual Meeting, Colorado Convention Center, Denver, USA. 2009 年
17. **福井雅之**、本庄勉、四宮貴久 ロキタマイシンはヒトリンパ腫由来培養細胞に細胞障害を誘導する 第 78 回日本生化学大会 神戸国際会議場 (神戸市) 2005 年 10 月 19-22 日
18. 多田真波、**福井雅之**、田中真人、小島周二、四宮貴久 ES 細胞とリンパ球由来細胞の融合細胞の研究 第 78 回日本生化学大会 神戸国際会議場 (神戸市) 2005 年 10 月 19-22 日
19. 木島愛、**福井雅之**、池北雅之、四宮貴久 ES 細胞由来のサイトプラストの性状解析 第 78 回日本生化学大会 第 78 回日本生化学大会 神戸国際会議場 (神戸市) 2005 年 10 月 19-22 日
20. **福井雅之**、山田実穂、実吉純香、高橋和彦、本庄 勉、澤井哲夫、小島周二、四宮貴久 酸化 LDL のインスリン産生細胞におよぼす影響 第 124 回日本薬学会年会、大阪、3 月 29-31 日、2004.

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

H24 年度琉球大学熱帯生物圏研究センター熱帯感染生物学部門セミナー
平成 24 年 5 月 28 日 琉球大学

[学内各種委員]

基礎学力向上委員会、入試問題作成担当委員会、薬学部学生委員会、薬学教育評価機構対策委員会、図書委員会

氏名 宮城 孝満 (MIYAGI Takamitsu)

所属 薬学部薬学科

職種 准教授

生年月日 1973年1月14日

[履歴]

[学歴]

2000年3月九州工業大学 情報工学部 生物化学システム工学科卒業

2002年3月九州工業大学大学院 情報工学研究科 博士前期課程修了

2006年3月九州工業大学大学院 情報工学研究科 博士後期課程 単位取得退学

[学位]

2006年6月 博士(情報工学)

[職歴]

2006年4月城西国際大学 薬学部 物理薬剤学講座助手 (2012年3月末まで)

2012年4月製剤系ベンチャー企業 研究開発部 部長 (2014年2月末まで)

2014年4月亀田医療大学 看護学部 専門・基礎専門領域 助教 (2016年3月末まで)

2016年4月より現職

[所属学会]

日本DDS学会、化学工学会

[教育活動]

[担当科目]

物理薬剤学、製剤学、薬学総合演習Ⅰ、Ⅱ(分担)、薬剤学実習、

[教育指導に関する特記事項]

[研究活動]

[研究テーマ]

薬物送達システムの開発

機能性化粧品の開発

[著書、論文、総説]

原著論文

Yuichi Takizawa, Fumio Fukai, Takeshi Goto, Shuji Sato, Naoya Ohmori, Kenji Mori, Yayoi Shimada, Kuei-ChenChiang, Takamitsu Miyagi, Eriko Tane and Satoshi Chiba, "The 24-hour *in vitro* hairless rat skin permeability study of the 1-day fentanyl transdermal formulations marketed in Japan—Fentos® Tape and OneDuro® Patch", JOURNAL OF DRUG DELIVERY RESEARCH, volume4, Issue3, p.1~p.15 (2015)

著書

森健二, 宮城孝満, 杉林堅次, 「イオントフォレシス技術を利用した経皮吸収製剤の開発」, 経皮吸収型製剤開発における基礎と実務への応用 第7章1節 p.135-p.148, 株式会社 情報機構 (2015)

森健二, 宮城孝満, 「エレクトロポレーションの開発・設計及び評価法」, 注射剤・経口剤にかわる新しい薬剤投与デバイスの開発 第2章2節 p.53-p.57, 株式会社 技術情報協会 (2014)

森健二, 宮城孝満, 杉林堅次, 「イオントフォレシスとエレクトロポレーション」, 機能性化粧品と薬剤デリバリー 第6章3節 p.126-p.135, シーエムシー出版 (2013)

[学会発表]

Takamitsu Miyagi, Kenji Mori, Naoya Ohmori, Kuei-Chen Chiang, Yayoi Shimada, Takeshi Goto, Shuji Sato, “Effect of transdermal delivery of whitening agents using electrode switching iontophoresis on the pigmentation induced by ultraviolet ray”, 3rd International Conference on Nutraceutical and Cosmetic Sciences, (Shinjuku, Japan, 2014)

宮城孝満 「鉄飽和型(ホロ型)ラクトフェリンを標的としたヒスチジンジチオオクタナミド(Na/Zn)のイヌ涙やけ抑制効果」 第33回動物臨床医学会年次大会 (大阪, 2012)

大森直哉, 森健二, 宮城孝満, 江貴真, 島田弥生, 宮崎里志, 尾ヶ瀬拓真, 青木さくら, 宇賀尚子, 小西祐加, 後藤武, 佐藤秀次 「新規免疫抑制性抗体による免疫抑制メカニズムの解析」 日本薬学会第132年会(北海道, 2012)

生田目温子, 宮城孝満, 清水舞, 大森直哉, 森健二, 山本博, 佐藤秀次, 柴原壽行, 後藤武 「イヌ認知症治療を目的としたドネペジル塩酸塩の経皮液剤の有用性評価～イヌ血漿中薬物動態からの考察～」 第32回動物臨床医学会年次大会 (大阪, 2011)

Chiang KC, Shimada Y, Nakano T, Lai CY, Hsu LW, Goto S, Ohmori N, Mori K, Miyagi T, Kawamoto S, Ono K, Chen CL, Sato S, Goto T, “A peptide mimotope as a potential diagnostic and therapeutic therapy in organ transplantation” BIT’s 4th Annual Congress and Expo of Molecular Diagnostics (Beijing, China, 2011)

[その他の活動]

棚田のあかり実行委員(千葉県鴨川市 2015年)

[公開講座、講演、セミナー]

薬剤師体験セミナー(秋田県薬剤師会大館秋田支部後援 2016年7月30日)

薬剤師体験セミナー(青森県教育委員会共催, 公益社団法人日本薬学会東北支部会後援 2016年8月27日、28日)

[学内各種委員]

入試管理委員会、動物センター運営委員会

氏名 天内 博康 (AMANAI Hiroyasu)

所属 薬学部薬学科

職種 講師

生年月日 1967年1月29日

[履 歴]

[学 歴]

1990年4月 青森短期大学商経科第二部入学
1992年3月 青森短期大学商経科第二部卒業
1993年4月 青森大学社会学部社会学科入学
1995年3月 青森大学社会学部社会学科卒業

[学 位]

社会学士

[職 歴]

1985年4月 株式会社日誠情報システムズ 入社
1987年3月 株式会社日誠情報システムズ 退社
1987年4月 青森県ソフトウェアサービス株式会社 入社
1993年3月 青森県ソフトウェアサービス株式会社 退社
1995年4月 学校法人青森山田学園 採用 青森短期大学 助手
2005年4月 青森短期大学 講師
2012年4月 青森大学薬学部薬学科 講師

[受 賞]

[所属学会]

情報処理学会, 情報文化学会

[教育活動]

[担当科目]

(2012年度) 情報科学演習Ⅰ, 情報科学演習Ⅱ, 情報処理Ⅰ, 情報処理Ⅲ,
情報処理Ⅳ
(2013年度) 情報リテラシー, 情報の集計・分析, 情報科学演習Ⅱ
(2014年度) 情報リテラシー, 情報の集計・分析, プレゼンテーション,
基礎演習, 地域貢献基礎演習, キャリアデザインⅡA
(2015年度) 情報リテラシー, 情報の集計・分析, プレゼンテーション,
基礎演習, 地域貢献基礎演習, 学問のすすめ,
キャリアデザインⅠ, キャリアデザインⅡ,
地域貢献プランニング

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

[教育指導に関する特記事項]

[研究活動]

[研究テーマ]

学習支援システムの活用, プログラミング教育

[著書、論文、総説]

- 2003年3月 『短期大学における教科別授業の工夫』（論文）共著
青森大学・青森短期大学学術研究会研究紀要
- 2013年11月 『Moodleを活用した情報科目教育の実践』（研究ノート）
青森大学学術研究会研究紀要
- 2015年3月 「Ⅱ-6 プレゼン力を養う」分担執筆
青森大学基礎スタンダードテキスト『学びの道しるべ』
- 2016年3月 「Ⅰ-6 分析する」「Ⅱ-6 プレゼン力を養う」分担執筆
青森大学基礎スタンダードテキスト第2版『学びの道しるべ』

[学会発表]

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| 2012年10～11月 | 青森県立青森中央高等学校 | 「プレゼンテーション法」 |
| 2013年10～11月 | 青森県立青森中央高等学校 | 「プレゼンテーション法」 |
| 2014年10～11月 | 青森県立青森中央高等学校 | 「プレゼンテーション法」 |
| 2015年10～11月 | 青森県立青森中央高等学校 | 「プレゼンテーション法」 |

[学内各種委員]

卒業試験委員会, CBT運営委員会, OSCE運営委員会, 情報・IT委員会,
学習支援センター, 学長補佐室

[学外各種委員]

青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会

氏名 井沼 道子 (INUMA Michiko)

所属 薬学部薬学科

職種 助教

生年月日 1979年1月14日

【履 歴】

【学 歴】

2001年3月 弘前大学理学部生物学科 卒業

2005年3月 弘前大学大学院理学研究科生物学専攻 修了

2009年3月 岩手大学大学院連合農学研究科生物資源科学専攻 修了

【学 位】

農学博士

【職 歴】

2009年4月 アドバンテック株式会社 特定派遣研究員

2016年4月 青森大学薬学部 助教

【受 賞】

特記事項なし

【所属学会】

染色体学会

【教育活動】

【担当科目】

薬学総合演習、分析化学実習、微生物・衛生化学実習、薬剤学実習

【卒業研究指導】

なし

【ゼミ指導】

4年生3人、5年生2人を指導（三浦教授と共同）

【教育指導に関する特記事項】

1: 薬剤師国家試験、及び薬学共用試験支援のための演習を行っている。

2: 学生実習において各種実験の指導等を行っている。

【研究活動】

【研究テーマ】

後発医薬品に関する薬剤学的研究

【著書、論文、総説】

1: Inuma M, Obara Y, Kuro-o M. The delayed quinacrine mustard fluorescence from the C-blocks of *Apodemus argenteus* is due to the introduction of nicks into the DNA. *Zoological Science* 2007 Jun; 24 (6): 588-595.

2: Inuma M, Obara Y, Kuro-o M. The role of nick formation in delayed quinacrine mustard

fluorescence in the C-heterochromatin of *Apodemus argenteus*. Zoological Science 2009 May; 26 (5): 344-348.

【学会発表】

- 1: 井沼道子、小原良孝、黒尾正樹 ヒメネズミの C-ヘテロクロマチンに関する研究 — QM 蛍光遅延に伴う染色体 DNA の変化 染色体学会第 56 回年会 (2005 年 10 月)
- 2: 井沼道子、小原良孝 ヒメネズミ C-ヘテロクロマチンの QM 蛍光遅延における染色体タンパク質の関与 染色体学会第 57 回年会 (2006 年 11 月)
- 3: 井沼道子、小原良孝 ヒメネズミ C-ヘテロクロマチンにおける QM 蛍光遅延の非遅延型への転換と染色体 DNA の nick との関連 第 58 回染色体学会・第 17 回染色体コロキウム合同年会 (2007 年 11 月)

【その他の活動】

特記事項なし

【公開講座、講演、セミナー】

特記事項なし

【学内各種委員】

卒業研究推進委員会、OSCE 運営委員会、事前実習実施委員会、ワークショップ委員会、共通機器運営委員会、動物センター運営委員会

氏名 中北 敏賀 (NAKAKITA Toshinori)

所属 薬学部薬学科

職種 助教

生年月日 1984年11月11日

[履 歴]

[学 歴]

2007年3月 日本大学薬学部薬学科 卒業

2009年3月 日本大学大学院薬学研究科博士前期課程 修了

2014年3月 日本大学大学院薬学研究科博士後期課程 修了

[学 位]

2014年3月 博士(薬学)

[職 歴]

2011年4月 塩野香料株式会社フレグランス開発部

2014年4月 日本大学薬学部 共同研究員

2014年12月 カンザス大学化学学部 博士研究員

2016年4月 青森大学薬学部 助教 現在に至る

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本薬学会

[教育活動]

[担当科目]

基礎演習、調剤学実習、有機化学・天然物化学実習、薬学基礎実習 II、微生物・衛生化学実習、薬学総合演習 I、薬学総合演習 II、実務実習事前実習

[卒業研究指導]

特記事項なし

[ゼミ指導]

特記事項なし

[教育指導に関する特記事項]

特記事項なし

[研究活動]

[研究テーマ]

1, 光学活性スルホキシドを用いた新規不斉反応の開発

2, 機能性材料として用いられるアズレン誘導体及びバイアズレン誘導体の合成

[著書、論文、総説]

1, Toshinori Nakakita, Motofumi Miura, Masaharu Toriyama, Shigeyasu Motohashi, Mikhail V. Barybin, Remote induction of stereoselective 1,2-addition of aryl Grignard reagents to β -sulfinyl enones, *Tetrahedron Lett.* **2014**, 55, 1090-1092.

2, Shigeyasu Motohashi, Kouichi Nagase, Toshinori Nakakita, Takeshi Matsuo, Yoshikazu Yoshida, Takashi Kawakubo, Motofumi Miura, Masaharu Toriyama, Mikhail V. Barybin, Stereochemically Controlled Asymmetric 1,2-Reduction of Enones Mediated by a Chiral Sulfoxide Moiety and a Lanthanum(III) Ion, *J. Org. Chem.* **2011**, 76, 3922-3936.

[学会発表]

1, 中北敏賀, 三浦基文, 鳥山正晴, 本橋重康. シグマトロピー転位反応を用いた γ -hydroxy cycloalkenone の効率的合成法の開発. 日本薬学会第 134 年会 (2014 年 3 月, 熊本)

- 2, 三浦基文, 中北敏賀, 鳥山正晴, 本橋重康. ベータスルフィニルエノンとアリルグリニャール試薬による立体選択的 1,2-付加反応. 日本薬学会第 134 年会 (2014 年 3 月, 熊本)
- 3, Mason D. Hart, John J. Meyers, Toshinori Nakakita, Masaharu Toriyama, Shigeyasu Motohashi, Mikhail V. Barybin. Isocyanide-terminated linear 2,2'- and 2,6'-biazulenyl ligands and related species interaction with electron-rich transition metal. 246th ACS National Meeting & Exposition (2013 年 3 月, アメリカ)
- 4, Toshinori Nakakita, Kouichi Nagase, Motofumi Miura, Masaharu Toriyama, Mikhail V. Barybin, Shigeyasu Motohashi. La(III)-mediated asymmetric 1,2-reduction of enones featuring a chiral sulfoxide, 243rd ACS National Meeting & Exposition. (2012 年 3 月, アメリカ)
- 5, 三浦基文, 相場礼央, 中北敏賀, 鳥山正晴, 本橋重康. 光学活性 α -スルフィニルエノンと有機金属による様々な不斉有機反応. 日本薬学会第 132 年会 (2012 年 3 月, 札幌)
- 6, 中北敏賀, 三浦基文, 鳥山正晴, 本橋重康. 光学活性な α,β -不飽和- γ -ケトスルホキシドの立体選択的 1,2-還元 of 検討. 日本薬学会第 129 年会 (2009 年 3 月, 京都)
- 7, 中北敏賀, 三浦基文, 鳥山正晴, 本橋重康. 光学活性な α -エノンスルホキシドの立体選択的 1,2-還元 of 検討. 日本薬学会第 128 年会 (2008 年 3 月, 横浜)

[その他の活動]

特記事項なし

[公開講座、講演、セミナー]

特記事項なし

[学内各種委員]

オープンキャンパス担当委員会、入試問題作成委員会、卒業研究推進委員会、危険物管理委員会、事前実習実施委員会、OSCE 運営委員会

氏名 水谷 征法 (Masanori MIZUTANI)
所属 薬学部薬学科
職種 助教
生年月日 1981年4月21日

【履 歴】

【学 歴】

2004年3月 青森大学生物工学科 卒業

2010年3月 岩手大学大学院連合農学研究科博士課程 修了

【学 位】

2010年3月 博士(農学)

【職 歴】

2010年4月 盛岡大学栄養科学部 博士研究員

2012年4月 金沢大学薬学系 博士研究員

2015年4月 青森大学薬学部 助教(現在に至る)

【受 賞】

第226回(平成20年度)日本作物学会講演会「最優秀ポスター賞」

受賞者 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史

内容 イネ胚乳形成初期における新規サイクリン依存性キナーゼ阻害因子の発現

【所属学会】

分子生物学会

【教育活動】

【担当科目】

基礎薬学実習

分析化学・放射科学実習(分担)、微生物・衛生科学実習(分担)、薬剤学実習(分担)

【卒業研究指導】

なし

【ゼミ指導】

なし

【教育指導に関する特記事項】

なし

【研究活動】

【研究テーマ】

- 1, Baculovirus dual expression system (BDES)を用いたガンワクチンの開発研究
- 2, Gタンパク質共役受容体(GPCR)の機能解析

【論文】

- 1, Mizutani, M., Naganuma, T., Tsutsumi, KI., and Saitoh, Y. The Syncytium Specific Expression of The Orysa;KRP3 CDK Inhibitor: Implication in Its Involvement in The Cell Cycle Control in The Rice Syncytial Endosperm. *Journal of Experimental Botany* 61, 791-798 (2010).
- 2, Mizutani, M., Mukaiyama, K., Xiao, J., Mori, M., Satou, R., Narita, S., Okuda, S. and Tokuda, H. Functional differentiation of structurally similar membrane subunits of the ABC transporter LolCDE complex. *FEBS Lett.* 587, 23-29 (2013).
- 3, Mizutani, M., Iyori M., Blagborough, AM., Fukumoto, S., Funatsu, T., Sinden, RE. and Yoshida, S. Baculovirus-Vectored Multistage Plasmodium vivax Vaccine Induces

Both Protective and Transmission-blocking Immunities against Transgenic Rodent Malaria Parasites. *Infect. Immunol.* 82, 4348-57 (2014).

4, Sala, K., Nishiura, H., Upton, L., Zakutansky, S., Delves, M., Iyori, M., Mizuatani, M., Sinden, RE., Yoshida, S. and Blagborough, AM. The Plasmodium berghei sexual stage antigen PSOP12 induces anti-malarial transmission blocking immunity both in vivo and in vitro. *Vaccine* 33, 437-445 (2015).

[学会発表]

- 1, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ Cyclin-dependent kinase inhibitor (CKI) 遺伝子の同定・発現解析 日本分子生物学会 2006 フォーラム (名古屋)
- 2, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ新規 CDK inhibitor の発現解析 第 30 回日本分子生物学会年会 第 80 回日本生化学会大会 合同大会 (横浜)
- 3, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 種子形成過程におけるイネ新規 CDK inhibitor の発現時期および部位の解析 日本農芸化学学会 2008 年度大会 (名古屋)
- 4, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳の核内倍化時期におけるサイクリンおよび CDK インヒビターの発現部位の解析 日本生化学会東北支部会 74 回例会・シンポジウム (盛岡)
- 5, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳形成初期における新規サイクリン依存性キナーゼ阻害因子の発現 第 226 回 日本作物学会講演会 (神戸)
- 6, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳形成初期における新規サイクリン依存性キナーゼ阻害因子の発現解析 日本育種学会第 114 回講演会 (彦根)
- 7, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ種子における新規 CDK 阻害因子の発現解析 第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会 (神戸)
- 8, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳形成初期の多核体形成、細胞化と ESOCKI の時間的空間的発現変動 日本作物学会第 227 講演会 (筑波)
- 9, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳初期で発現する遺伝子の検索 日本育種学会第 116 回講演会 (札幌)
- 10, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳形成初期に発現する F-box ファミリー遺伝子の解析 第 32 回日本分子生物学会年会 (横浜)
- 11, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳形成初期のシンシチウムで特異的に発現する *Oryza*:KRP3 と相互作用する F-box タンパク質の同定 日本作物学会第 229 講演会 (宇都宮)
- 12, 水谷征法、向山啓太、徳田元 光架橋性人工アミノ酸 (pBPA) 導入による LolCDE-Pal 間相互作用の解析 日本農芸化学学会 2011 年度大会 (京都)
- 13, Mizutani, M., Mukaiyama, K. and Tokuda, H. Analysis of interaction between LolCDE and lipoproteins by photo-cross-linking. 4th congress of European Microbiologists FEMS 2011 (Geneva, Switzerland)
- 14, 水谷征法、舟津知宏、伊従光洋、Blagborough AM、福本晋也、Sinden RE、吉田栄人 非感染性ウイルスベクターを用いた三日熱マラリア感染防御-伝播阻止 2 価ワクチンの開発研究 第 11 回分子寄生虫・マラリアフォーラム (長崎)
- 15, 水谷征法、舟津知宏、伊従光洋、Blagborough AM、福本晋也、Sinden RE、吉田栄人 非感染性ウイルスベクターを用いたマルチステージ三日熱マラリアワクチンの開発研究 第 83 回日本寄生虫学会 (愛媛)
- 16, 水谷征法、舟津知宏、伊従光洋、Blagborough AM、福本晋也、Sinden RE、吉田栄人 感染防御・伝播阻止の両機能を搭載した三日熱マラリア 2 価ワクチンの開発 第 22 回分子寄生虫学ワークショップ/第 12 回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム 合同大会 (帯

広)

[その他の活動]

なし

[公開講座、講演、セミナー]

なし

[学内各種委員]

(薬学) 基礎学力向上委員会、CBT 運営委員会、学生実習委員会、共通機器運営委員会、
入試問題(化学)作成担当

氏名 三輪 将也 (MIWA Masaya)

所属 薬学部 薬学科

職種 助教

生年月日

[履 歴]

[学 歴]

2009年3月 名城大学大学院総合学術研究科総合学術専攻博士後期課程 修了

[学 位]

2009年3月 博士 (学術)

[職 歴]

名城大学 研究員

京都大学 特定研究員

青森大学薬学部 助教 (現職)

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本神経化学会、日本薬理学会、日本神経科学学会、Society for Neuroscience

[教育活動]

[担当科目]

医療薬学 II、薬学総合演習 I、薬学総合演習 II、基礎演習、薬理学実習、
薬剤学実習、特別実習、実務実習事前実習

[卒業研究指導]

2015年度配属 1名、2016年度配属 3名

[ゼミ指導]

特記事項なし

[教育指導に関する特記事項]

- ・薬剤師国家試験対策の授業を行っている。
- ・薬学共用試験対策の授業を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

記憶形成、認知症の病態および治療薬の機序解明

[著書、論文、総説]

(著書)

- 1: Hiramatsu M, Takahashi Y, Amano A, Kido K, Matsukura T, Yamanashi T, Kakehi Y, Nabeshima T and Miwa M: Chapter 14, Beneficial effects of betaine on water-immersion restraint stress-induced memory impairment in mice. Betaine: Chemistry, Analysis, Function and Effects (Edited by Victor R Preedy), Royal Society of Chemical, Cambridge, United Kingdom 222-244 (2015).

(論文)

- 1: Hiramatsu M, Miwa M, Hashimoto K, Kawai S and Nomura N: Nociceptin/orphanin FQ reverses mecamlamine-induced learning and memory impairment as well as decrease in hippocampal acetylcholine release in the rat. Brain Res., 1195: 96-103 (2008).
- 2: Miwa M, Shinki C, Uchida S and Hiramatsu M: Distinct effects of nociceptinanalogs

on scopolamine-induced memory impairment in mice. *Eur. J. Pharmacol.*, 602: 328-333 (2009).

- 3: Miwa M, Uchida S, Horiba F, Takeshima H, Nabeshima T and Hiramatsu M: Nociceptin and its metabolite attenuate U0126-induced memory impairment through a nociceptin opioid peptide (NOP) receptor-independent mechanism. *Neurobiol. Learn. Mem.*, 93: 396-405 (2010).
- 4: Miwa M, Tsuboi M, Noguchi Y, Enokishima A, Nabeshima T and Hiramatsu M: Effects of betaine on lipopolysaccharide-induced memory impairment in mice and the involvement of GABA transporter 2. *J. Neuroinflammation*, 8: 153 (2011).

[学会発表]

1. Hiramatsu M, Kawai Y, Miwa M, Mamiya T and Nabeshima T: Improving effect of nociceptin on scopolamine-induced learning and/or memory impairment in ORL1 receptor knockout mice. International Narcotics Research Conference 2004/Kyoto (2004年7月)
2. 平松正行、三輪将也、橋本和樹、野村奈央: メカミラミン誘発学習・記憶障害に対するノシセプチンの作用. 第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学会大会合同大会 (2004年9月)
3. Hiramatsu M, Miwa M, Hashimoto K and Nomura N: Reversion of mecamylamine-induced acetylcholine decrease in rat hippocampus and learning and memory impairment by nociceptin/orphanin FQ. The 34th annual meeting of the Society for Neuroscience (2004年10月)
4. 三輪将也、野村奈央、橋本和樹、平松正行: Mecamylamine 誘発学習・記憶障害およびラット海馬内アセチルコリン遊離量の減少に対する nociceptin の効果. 第8回ニコチン・薬物依存研究フォーラム学術年会 (2005年3月)
5. 平松正行、三輪将也、新木智映子、河合慶明: ORL1 受容体非依存的なノシセプチンによる学習・記憶障害改善作用. 第78回日本薬理学会年会 (2005年3月)
6. Hiramatsu M, Miwa M, Shinki C, Kawai Y and Kameyama T: Nociceptin improves learning and memory by acting on ORL1 receptor-independent mechanisms. The 35th annual meeting of the Society for Neuroscience (2005年11月)
7. 三輪将也、田村洋明、鍋島俊隆、平松正行: Effects of nociceptin on β -amyloid peptide (25-35)-induced learning and memory impairment. 第28回日本生物学的精神医学会・第36回日本神経精神薬理学会・第49回日本神経化学会大会合同年会 (2006年9月)
8. 三輪将也、岩田合郁、平松正行: Lipopolysaccharide 誘発記憶障害に対するベタイン、カテキンの作用. 第80回日本薬理学会年会 (2007年3月)
9. 平松正行、三輪将也、内田将吾、笥裕介、岩田合郁: ストレス負荷またはリポポリサッカライド (LPS) 投与による学習・記憶障害モデルマウスに対するカテキンおよびベタインの効果. 第9回応用薬理シンポジウム (2007年9月)
10. Miwa M, Uchida S and Hiramatsu M: Nociceptin improves impairment of learning and memory mediated by MEK/ERK pathway. The 37th annual meeting of the Society for Neuroscience (2007年11月)
11. 高橋ゆかり、天野杏南、三輪将也、鍋島俊隆、平松正行: 拘束水浸ストレスによる学習・記憶障害と関与するメカニズムについて. 第17回神経行動薬理若手研究者の集い (2008年3月)
12. 三輪将也、坪井美月、野口祐美子、鍋島俊隆、平松正行: リポポリサッカライドによる記憶障害及び炎症性マーカーの遺伝子発現に対するベタインの作用. 第81回日本薬理学会年会 (2008年3月)

13. 内田将吾、藤井久美、三輪将也、鍋島俊隆、平松正行: 低用量ノシセプチンの海馬内投与による学習・記憶障害改善作用と細胞内情報伝達系の関与. 第 81 回日本薬理学会年会 (2008 年 3 月)
14. Miwa M, Uchida S, Horiba F, Fujii K, Nabeshima T and Hiramatsu M: Nociceptin improves long-term memory impairment induced by a MEK inhibitor, but not a PKA inhibitor. International Symposium on Brain Development and Neuropsychiatric Disorders (2008 年 9 月)
15. 三輪将也、天野杏南、川村美緒、鍋島俊隆、平松正行: 拘束水浸ストレスによって惹起される記憶障害とその機構. 名城大学学術フロンティア推進事業 第 1 回若手研究者シンポジウム (2009 年 3 月)
16. 高橋ゆかり、天野杏南、川村美緒、三輪将也、鍋島俊隆、平松正行: 拘束水浸ストレスによる学習・記憶障害における炎症性サイトカインの関与. 第 82 回日本薬理学会年会 (2009 年 3 月)
17. 三輪将也、堀場史加、内田将吾、鍋島俊隆、平松正行: ノシセプチン及びノシセプチン代謝物は MEK 阻害薬による記憶障害を NOP 受容体非依存的に改善する. 第 82 回日本薬理学会年会 (2009 年 3 月)
18. 三輪将也、川村美緒、高橋ゆかり、天野杏南、鍋島俊隆、平松正行: 拘束水浸ストレス負荷による記憶障害に対するベタインの作用. 第 11 回応用薬理シンポジウム (2009 年 9 月)
19. Hiramatsu M, Iwata A, Tsuboi M and Miwa M: Repeated administration of betaine or catechin prevents lipopolysaccharide-induced memory impairment in mice. The 39th annual meeting of the Society for Neuroscience (2009 年 10 月)
20. Miwa M, Horiba F, Uchida S, Nabeshima T and Hiramatsu M: Nociceptin and its metabolite improve U0126-induced memory impairment through NOP receptor-independent mechanism. The 39th annual meeting of the Society for Neuroscience (2009 年 10 月)
21. 木下沙織、木戸究、三輪将也、鍋島俊隆、平松正行: 拘束水浸ストレス負荷による記憶障害に対するベタインの改善作用における GABA transporter 2 (GAT2/BGT-1) の関与. 第 84 回日本薬理学会年会 (2011 年 3 月)
22. 平松正行、木下沙織、木戸究、中島菜月、坪井純子、三輪将也、鍋島俊隆: グリシンベタインによる学習・記憶障害改善作用機序の解明. 生体機能と創薬シンポジウム 2011 (2011 年 9 月)
23. Hiramatsu M, Miwa M, Tsuboi M, Noguchi Y, Enokishima A and Nabeshima T: Protective effects of betaine on lipopolysaccharide-induced memory impairment in mice and the involvement of GABA transporter 2. 28th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology (2012 年 6 月)

[その他の活動]

特記事項なし

[公開講座、講演、セミナー]

特記事項なし

[学内各種委員]

基礎学力向上委員会、卒業研究推進委員会、学生実習委員会、OSCE 運営委員会、事前実習実施委員会、共通機器運営委員会、動物センター運営委員会

氏名 多田 智美 (TADA Tomomi)

所属 薬学部

職種 助手

生年月日 1993年1月19日

[履歴]

[学歴]

2015年3月 岩手大学農学部応用生物化学課程 卒業

[学位]

学士(農学)

[職歴]

[受賞]

[所属学会]

[教育活動]

[担当科目]

有機化学・天然物科学実習、生化学実習、基礎薬学実習、薬学基礎実習 I

[研究活動]

[その他の活動]

[学内各種委員]

予算委員会、学生実習委員会